

学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

vol. **93** 2025
夏号

Special Feature

理事長・学長からのメッセージ vol.36

開学80周年記念及び
畝傍山キャンパスオープン記念式典を開催しました



奈良県立医科大学
Nara Medical University

Contents

特集

理事長・学長からのメッセージ vol.36	3
開学 80 周年記念及び畝傍山キャンパスオープン記念式典を開催	4
令和 6 年度 公立大学法人奈良県立医科大学決算	5
MBT 研究所だより (第 37 報)	6
図書館だより	7
国際交流センターだより vol.20	8
働き方改革だより	10
看護部の紹介	12
先端医学研究支援機構だより	13

Topics

医療機関における AI 利用者ガイドラインについて	15
---------------------------	----

Campus News

奈良県難病診療連携拠点病院難病医療従事者研修会を開催しました	16
ESC Heart Failure の最多引用論文トップ 10 に選出されました	16
第 89 回日本循環器学会学術集会で発表しました	16
大阪南消防組合柏羽藤消防署から感謝状が贈呈されました	16
MBT 特命教員による学生への特別講義	17
ISHR でポスター発表を行いました	17
奈良臨床漢方医学セミナーを開催しました	17
NAIST メディルクス研究センター、奈良県立医科大連携ワークショップを開催しました	18
白衣授与式を開催しました	18
第 7 回わい和い NARA 在宅サポート研究会研究発表会を開催致しました	19
大学院看護学研究科のオープンキャンパス 2025 を開催しました	19
なかよし保育園において一次救命処置の講習を行いました	19
公的研究費の適正使用に係る研修会を受講してください (Web 動画)	19

Winner Report

2024 年度「日本医学放射線学会研究助成」表彰	20
第 9 回高木賞臨床研究奨励賞を受賞しました	20
ERAS Japan Best Practice Award 第 3 位を受賞しました	20
国際ソロプチミスト奈良一あすか女性研究者賞を受賞されました	20
奈良県立医科大学医学部医学科同窓会海外留学助成金 厳檀学術奨励賞 受賞者決定	21
国際ソロプチミスト奈良一あすか大学院女子学生奨学金クラブ賞を受賞されました	21
The 2024 Most Downloaded Paper Award (JD) を授賞しました	21
SIO 2025 年 Grant Recipients に選出されました	21
第 14 回奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞の授賞式を開催しました	22
第 31 回日本血管内治療学会総会優秀演題賞を受賞しました	22
第 32 回中島佐一学術研究奨励賞の授賞式を開催しました	22
PCN Reports Reviewer Awards 2024 を受賞しました	22
国際血栓止血学会 Esteemed Career Awards を受賞して	23
第 47 回血栓止血学会において学術奨励賞を受賞しました	23
第 48 回日本基礎老化学会大会において学会奨励賞を受賞しました	23
横断的共同研究助成事業及び若手研究者研究助成事業が採択されました	24
令和 7 年度 文部科学省科学研究費助成事業の決定	24
未来への飛躍基金だより	29

Information

大学院入試日程	30
公開講座情報	31

寄附者ご芳名

「未来への飛躍」基金にご協力いただきありがとうございました	31
編集後記	31
メディア掲載情報	32

奈良医大が目指すところ

開学 80 周年及び畝傍山キャンパスオープン記念式典におきまして、以下に示します事項に関係の深い 2 人の先生にご講演いただきました。医工連携につきましては、奈良先端科学技術大学院大学学長の塩崎一裕先生、AI につきましては、ミシガン大学の Brian D. Athey 教授です。

1) 医工連携による奈良医大の挑戦

近年、我が国の大学における研究・教育の方向性として「医工連携」の推進が強く求められています。医療の高度化と複雑化が進む中で、医学と工学の協働による新しい技術開発やイノベーションの創出が不可欠とされ、文部科学省をはじめとする政府機関は、医工連携を大学の戦略的課題として位置づけています。

こうした全国的な動向の中、奈良県立医科大学においても、医工連携を柱の一つとした先進的な取り組みを進めています。新聞等でも報道されている通り、本学は奈良先端科学技術大学院大学とともに「奈良先端医工科学連携機構」を設立し、令和 7 年 3 月に文部科学大臣より「大学等連携推進法人」に認定されました。この法人を中心に、両大学の知見と人的資源を結集し、医学と工学の垣根を超えた新たな研究開発で日本を世界をリードする取り組みに挑んでいます。

私は、この枠組みをさらに発展させるため、奈良医大と奈良先端大との共同大学院の設立が重要であると考えています。教育と研究の双方において、真に融合した人材育成の場が形成されることで、医工連携は一層深化するはずです。

特に奈良先端大が有する「メディルクス研究センター」は、医療現場と親和性の高い研究領域に強みを持っており、奈良医大の臨床医学と密接に連携することで、革新的な医療技術や診断装置の開発が期待されます。

本学はこれからも、「医学の理想」と「科学技術の進歩」の交差点として、地域社会に貢献するとともに、世界に向けた研究・教育の発信拠点として進化を続けてまいります。

2) AI と医学の融合による革新へ

近年、AI（人工知能）は社会のあらゆる分野に浸透し、特に医療分野においては、診断支援、治療計画、創薬、画像解析、病院運営の最適化など、多岐にわたる応用が急速に進んでいます。米国をはじめとする欧米諸国や中国では、AI と医学の融合による「精密医療」「個別化医療」が国家戦略の柱として推進され、大学・研究機関においても AI 教育の高度化や専門職育成プログラムが加速度的に整備されています。文部科学省や厚生労働省による支援のもと、医療 AI 人材の育成や基盤技術の研究が求められており、医学部における AI リテラシー教育はもはや必須といえる状況です。

こうした世界的・国家的な動向を踏まえ、奈良県立医科大学では、AI 教育・研究の医学分野におけるトップランナーを目指して、新たに「AI システム医学融合イノベーションセンター」を設立することといたしました。

本センターには 3 講座の設置を予定しており、本年中にはそのうち「数理 AI 医学講座」および「応用システム医科学講座」の教授選考を行います。これらの講座は、AI 技術と臨床・基礎医学との高度な融合を推進し、革新的な診断・治療手法の開発や医療データ解析の高度化を担う拠点として機能します。

80 周年記念式典に参加いただけなかった方々に是非式典の様子をご覧いただきたいと考えました。右記からご覧ください。



式典の様子

平成 29 年に医学科と看護学科統合の公立大学法人奈良県立医科大学のシンボルマークが制定されました。今回同様の趣旨で制作された学歌を右記から視聴ください。



学歌

※本学ホームページのトップページ右側のリンク先から您也可以ご覧になれます。

開学80周年記念及び畝傍山キャンパスオープン記念式典を開催

本学は昭和20年に開学し、本年度開学80周年を迎えました。また本年4月から「畝傍山キャンパス」がオープンしました。この節目を記念し、令和7年5月24日（土）畝傍山キャンパスにて記念式典を開催いたしました。

記念式典 14時00分～15時20分 講堂

式典には、国、県、県内自治体、関係大学・医療機関・企業の皆様や、本学の関係者など約210名の方にご出席いただきました。伊藤利洋 記念事業実行委員会委員長・医学科長による開会宣言で始まり、続いて細井裕司 理事長・学長より開会の挨拶がありました。嶋緑倫 理事・医学部長からはこの10年間の歩みと畝傍山キャンパスの紹介があり、記念動画が上映されました。また川口昌彦 記念事業実行委員会学歌部会長が、80周年を迎えるにあたり制作した学歌を紹介し、4月13日に橿原文化会館で開催したイベントの映像と当日録音した音源を披露しました。



記念動画



細井理事長・学長

その後、以下の皆様からご祝辞を賜りました。

- ・山下 真 奈良県知事
- ・田野瀬太道 衆議院議員
- ・川口延良 奈良県議会副議長
- ・奥野 真 文部科学省大臣官房審議官
- ・浅井清文 公立大学協会会長
- ・高橋優三 医学科同窓会会長
- ・上野栄一 看護学科同窓会会長

最後に、吉川公彦 理事・附属病院院長が閉会の挨拶を行いました。



山下 真 奈良県知事

記念講演 15時30分～16時20分 講堂

開学80周年記念及び畝傍山キャンパスオープン記念事業のテーマ「奈良から世界へ」と題した記念講演を行いました。ミシガン大学医学部からBrian D. Athey 教授を、奈良先端科学技術大学院大学から塩崎 一裕 学長をお迎えし、それぞれご講演いただきました。

祝賀会 16時35分～18時00分 レストラン・カフェ

堀井巖 参議院議員及び青山信房 奈良県病院協会会長からご祝辞を賜り、柊井和也 副理事長の発声により、大学のさらなる発展を願って乾杯を行いました。その後、参加された方々に歓談いただき、最後に木村茂和 理事・事務局長が閉会の挨拶を述べて式典は終了しました。学生による催しも式典を彩り、ご出席の皆様にご心温まるひとときをお楽しみいただきました。



茶道部による呈茶



アンサンブル部による演奏



軽音楽部による演奏

令和6年度 公立大学法人奈良県立医科大学決算

令和6年度決算 収益/600億3,084万円(+20億6,788万円) 費用/623億2,175万円(+29億3,987万円)

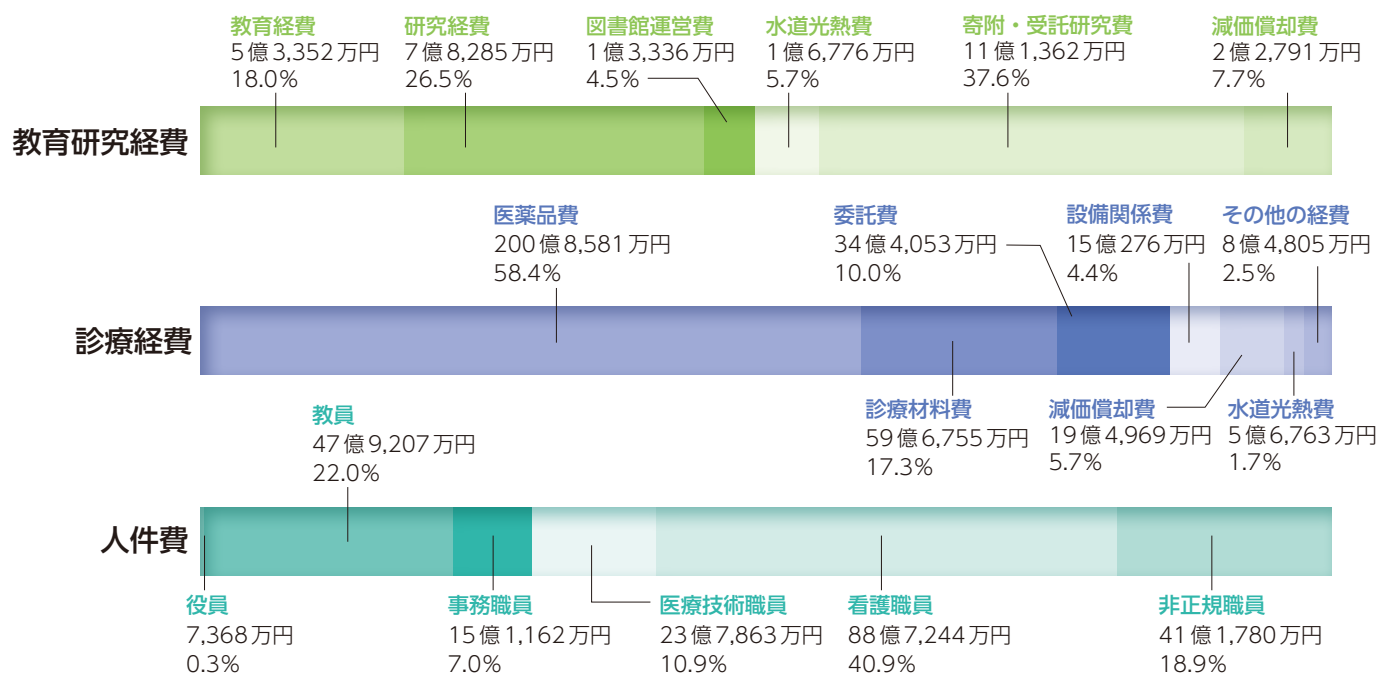
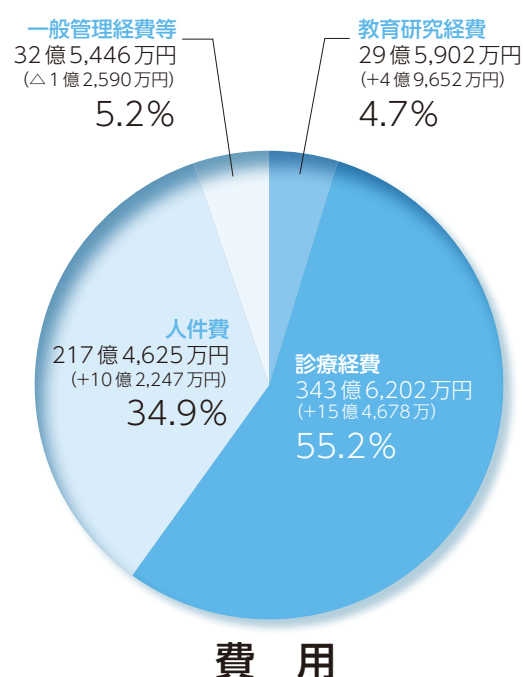
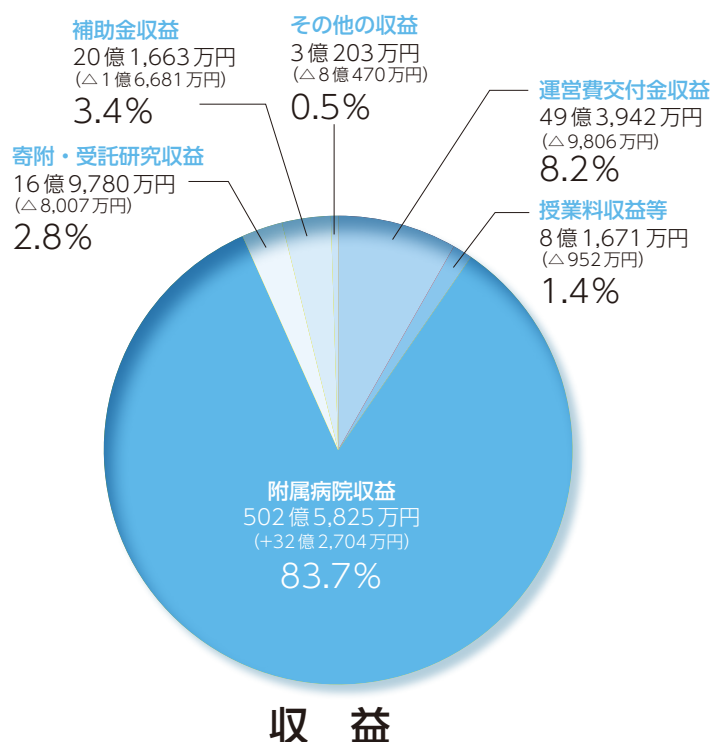
差引 22億9,091万円の赤字(R5 14億1,892万円の赤字)

※ () 内は前年との増減額

令和6年度は、病床運用の効率化等による入院患者数や入院単価の増、外来単価の増等により附属病院収益が増加しました。一方で、病床確保料等の新型コロナウイルス感染症に関連する補助金が廃止されたこと、人事委員会勧告によるベースアップ等で人件費が増加したことにより、22億円の赤字となり、昨年度の14億円の赤字より大幅に収支が悪化しました。

今年度は附属病院収益の増収は見込めるものの、一方で、人件費や診療経費、畝傍山キャンパス開校に伴う経費の増加が見込まれ、経営状況がさらに厳しくなることが予想されます。

皆さまには引き続き経費節減など経営改善に向けた取り組みへのご協力をよろしくお願いします。



1. 大阪・関西万博夢洲本会場出展

本学は、大阪・関西万博夢洲本会場への出展の機会をいくつかいただいておりますので、これらの状況についてご紹介いたします。

(1) 4月30日大阪ヘルスケアパビリオンリボン広場出展

4月30日、大阪ヘルスケアパビリオンのリボン広場で、けいはんな万博 2025 の一環として「学研都市「けいはんな」を通して見る未来社会～先端技術やアートが躍動してシームレスな社会を創造する文化と学術の研究都市～」と題するイベントが開催され、本学も出展しました。けいはんな万博 2025 は、けいはんなで 2025 大阪・関西万博と同時に開催されるサテライトイベントであり、大阪・関西万博開催期間に合わせてけいはんなで現在開催中です。この日のイベントはけいはんなからの出張イベントとして夢洲会場で実施されました。

本学からは、細井裕司理事長が「未来の健康長寿社会に挑む奈良県立医科大学の MBT 活動」の題目で、また梅田智広研究教授が「電力データとライフスタイル AI、MBT リンクが実現するスマートな未来」の題目で講演を行いました。また、「MBT コンソーシアムの活動紹介」、「MBT リンクヘルスケアシステムの描く未来」、「軟骨伝導が拓く未来社会」の 3 本の動画をディスプレイで繰り返し再生しました。



リボン広場での講演



リボン広場での展示

(2) 6月10日～16日大阪ヘルスケアパビリオンリボンチャレンジ出展

本学は大阪市内企業 2 社と連携して 6 月 10 日から 16 日の 1 週間、大阪ヘルスケアパビリオンリボンチャレンジで、未来のライフスタイルに関して試作機材を用い、体験デモを行いました。会場は大勢の観客が押し寄せる大盛況で、質問の対応に追われました。



リボンチャレンジでの展示

(3) 関西パビリオン京都ブース

7 月 28 日～8 月 3 日の 1 週間、けいはんな万博 2025 の一環として関西パビリオン京都ブースにおいて展示を行いました。

(4) 9月30日大阪ヘルスケアパビリオンリボン広場出展

4 月 30 日の出展と同様、けいはんな万博 2025 の一環として大阪ヘルスケアパビリオンリボン広場に展示いたします。

2. けいはんな万博 2025 Well-Being Festival 出展

6 月 13 日～6 月 15 日、けいはんなプラザにおいて、けいはんな万博 2025 Well-Being Festival が開催され、本学は、講演、展示、難病克服 MBT みんなで守るいのちの映画祭の 3 つで出展しました。

(1) 講演

6 月 14 日、けいはんなプラザ 3F ナイルで、「オートファジーによる健康長寿を目指して」の題目で中村修平教授が、また「電力データとライフスタイル AI 奈良医大 MBT が実現するスマートな社会～住民の健康を育む地域社会の未来像」の題目で梅田智広研究教授が講演を行いました。



けいはんなプラザでの講演



けいはんなプラザ展示コーナー

(2) 展示

6 月 13 日～14 日に、けいはんなプラザ 1 F イベントホールで、「バイタルと認知機能のチェックを通じて健康な未来づくり」のテーマで展示を行いました。

(3) 難病克服 MBT みんなで守るいのちの映画祭

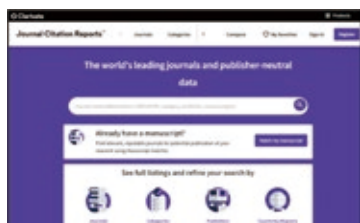
6 月 14 日、けいはんなプラザ 1F メインホールで、難病克服 MBT みんなで守るいのちの映画祭を開催しました。MBT 映画祭では、「みんなで守るいのち」を題材にしたトークセッションと、第 4 回難病克服支援 MBT みんなで守るいのちの映画祭で入賞した作品 5 本の上映を行いました。



トークセッションの様様

ジャーナル・インパクトファクターの調べ方

Clarivate 社が提供する Journal Citation Reports (JCR) の 2025 年版が 6 月 18 日に発表されました。これにより、ジャーナル・インパクトファクター (JIF) の最新版は「2024 Journal Impact Factor」となります。2025 年の最新版は、2022 年から 2023 年に出版された論文が 2024 年の一年間にどれだけ引



JCRのトップページ

用されたかを計算しているため、「2024」となります。



例:「Nature」の最新 JIF

JCR とは / 更新時期

JCR は学術雑誌の評価分析において代表的なデータベースです。1975 年から提供が始まり、今年で 50 年を迎えました。毎年 6 月末から 7 月頭に更新されます。

JIF の特徴

JIF の値は分野によって引用パターンが異なるために値の範囲が異なります。分野が異なると単純に比較できません。また、JIF はジャーナル単位の指標であり、個々の論文や著者の貢献度は測定しません。

JCR2025 年版のポイント

2025 年版は 254 分野にまたがる 22,249 誌のデータを収録しており、今年

$$\frac{\text{Citations in 2024 to items published in 2022 (54,420) + 2023 (55,651)}}{\text{Number of citable items in 2022 (1,114) + 2023 (1,156)}} = \frac{110,071}{2,270} = 48.5$$

「Nature」の JIF 計算式

初めて JIF を付与されたジャーナルは 618 誌です。また 2025 年版では、JIF 計算する際に、分子から撤回論文に対する引用および撤回論文からの引用を除外し、撤回論文の引用が JIF の数値に寄与しないようになりました。この変更が影響するのは全体の約 1% のジャーナルということです。

JIF の調べ方

JCR のトップページにある検索窓に雑誌名か ISSN を入れて検索します。略誌名では出てこないことも多いため、フルタイトルや ISSN で検索することをお勧めします。ISSN とはジャーナル個別の 8 桁のコード番号のことで、間にハイフン (-) が入っています。フルタイトルや ISSN はジャーナルのホームページや PubMed で確認できます。

JIF Quartile の調べ方

JIF Quartile (四分位) とは、同じカテゴリに分類されたジャーナルを JIF が高い順に並べて上位から下位まで 1/4 ずつつけたときどこに入るかを示したものです。Q1 = 上位 1/4、Q2 = 上位 2/4、Q3 = 上位 3/4、Q4 = 上位 4/4 です。

JCR のジャーナル詳細画面の下方にある「Rank by Journal Impact Factor」で、分野ごとの JIF Quartile を確認できます。

または、ジャーナル詳細画面上部の「Journal information」Category で分類されている分野をクリックし、分野別ランキングから該当ジャーナルの JIF Quartile を確認する方法もあります。

CATEGORY MULTIDISCIPLINARY SCIENCES			
2/135			
JCR YEAR	JIF RANK	JIF QUANTILE	JIF PERCENTILE
2024	2/135	Q1	98.9

「Nature」JIF Quartile

JCI

JIF の下に表示される「Journal Citation Indicator (JCI)」は、分野間のジャーナルを比較することができるよう正規化された指標となり、JIF を補完するように設計されています。

学外から使う

個人アカウントを登録すると、学外でもお調べいただけます。JCR に学内ネットワークからアクセスし、画面右上の「Register」のボタンを押すと、利用登録ができます。ご自宅や外出先でもご利用いただくことができ大変便利です。ぜひアカウント登録してご利用ください。

似た名前の雑誌が複数あるとき

例えば「Cancers」といったジャーナル名の場合、似たような名前の雑誌がいくつかあります。そのようなときは JCR のジャーナル詳細画面の「Journal Profile」にある出版地や ISSN と、ジャーナルのホームページや PubMed に掲載されている出版地や ISSN が合っているかを確認します。

調べても出てこないとき

いくつか要因が考えられます。

①雑誌が新しすぎる

冒頭に示した計算方法のとおり、JIF を計算するためには最低 3 年間は必要のため、刊行が新しすぎると出てきません。

② Web of Science Core Collection に収録されていない

JIF が付与されるのは WoS Core Collection に収録されたジャーナルに限定されます。収録誌の中に日本発行のものは少なく、ほとんどは欧文誌のため、国内の学会誌が出てこないことも多いです。

③検索したキーワードが間違っている

フルタイトルであっても、誌名の頭の「The」は取る、「&」は「and」と入れると出てこない、「J」は取る、「/」は「-」に変えるなど、細かい注意点がけっこうあります。ややこしい場合は ISSN を使ってください。その際も「-」は忘れずに。

CI を調べたいとき

JCR では調べられません。CI (Citation Index) は Web of Science や Scopus で調べられますが、本学ではそれらのデータベースを契約していません。図書館スタッフが国立国会図書館関西館へ代行調査に伺うことも可能ですので、ご希望の方はご相談ください。

Journal Citation Reports のジャーナル・インパクトファクターは研究業績作成や投稿先選び、最近では学内の APC 助成申請の際など、様々な場面で活用されています。気になるジャーナルがあれば一度ぜひ調べてみてください。

国際交流センターだより vol.20

チェンマイ大学からの研究者 (2025年4月7日-6月20日)

本学の学術交流協定校であるタイ・チェンマイ大学の研究者が、法医学教室にて研修を行いました。法医学教室での受け入れは、一昨年、昨年に続き今回が3回目となります。これまで継続的にご協力をいただき、心より感謝申し上げます。また、本学からチェンマイ大学への派遣も可能です。ご関心のある方は、国際交流センターまでお問い合わせください。

チェンマイ大学 (Chiang Mai University) Dr. Kanicnan Intui, MD

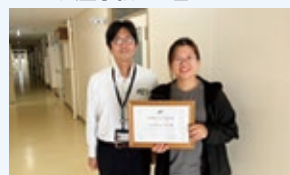
I truly appreciated the opportunity to take part in the training at the Department of Legal Medicine, Nara Medical University from April to June 2025. The experience broadened my perspective and deepened my understanding of forensic practice through hands-on observation and academic exchange.

I am especially grateful to the faculty and staff for their warm support and guidance throughout my stay. Their kindness made this journey truly enriching and memorable.

Thank you again for this wonderful program and for giving me the opportunity to take part in such a rewarding academic and cultural exchange. I look forward to applying what I have learned in my work and sharing the insights gained with my colleagues in Thailand.



法医学教室の皆さんと



粕田教授と

海外リサーチ・クラークシップ成果報告：卒業生のその後

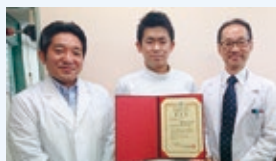
本学の卒業生で、海外リサクラ第1期生(平成28年度)でもある齊藤正一郎さん(東京都立多摩総合医療センター)の、卒業後のご活躍をご紹介します。齊藤さんは在学中から免疫学で研究に携わり、卒業後も継続して研究に取り組んでこられました。

齊藤 正一郎 (東京都立多摩総合医療センター呼吸器・腫瘍内科)

***論文タイトル:** Angiopoietin-like 4 Is a Critical Regulator of Fibroblasts during Pulmonary Fibrosis Development
American Journal of Respiratory Cell and Molecular Biology.69:328-339, 2023.

***発行年月日:** 2023年9月1日

***受賞歴:** ・第62回日本呼吸器学会学術講演会 ポスター発表優秀賞
・European Respiratory Society 2024 ERS/JRS Young Investigator Award 2024



免疫学講座伊藤教授、呼吸器内科学講座室教授とともに



European Respiratory Society 2024 にて

私は2017年1月から3月にかけて、リサーチ・クラークシップを通じて米国 Cedars-Sinai Medical Center で研究留学を経験し、帰国後もそのテーマを発展させて研究を継続しました。免疫学講座の伊藤教授をはじめ、講座の皆様や共同研究先の先生方のご指導のもと、第62回日本呼吸器学会学術講演会ポスター発表優秀賞を受賞、最終的に研究成果を論文化することができました。学生時代の学会発表や論文執筆を通じて国際的な視野と研究の魅力を実感しました。当時選んだ間質性肺疾患の研究は、呼吸器内科医となった現在も臨床研究として継続しており、その成果の一部は ERS/JRS Young Investigator Award 2024 の受賞という形で国際的に認められました。間質性肺疾患の病態解明と治療法の確立は、今後も生涯をかけて取り組むべき課題と考えており、この貴重な機会を与えてくれた本プログラムに心より感謝しています。好奇心を持ち、自ら機会をつかみにいく姿勢を、ぜひ後輩の皆さんにも大切にしてほしいと思います。

MESSAGE

医学部長 嶋 緑倫

齊藤正一郎先生は、現在、呼吸器内科専門医として活躍されながらも、学生時代に培われた研究マインドを高く維持し、臨床研究にも積極的に取り組んでおられます。その成果は、第62回日本呼吸器学会でのポスター発表優秀賞に留まらず、European Respiratory Society 2024におけるYoung Investigator Awardの受賞によっても高く評価されており、先生の実績が国際的にも認められています。海外リサーチクラークシッププログラムの先輩として、今後の益々のご活躍を祈っております。



医学科長(免疫学・教授) 伊藤 利洋

齊藤先生は海外リサーチクラークシップにて医学研究の楽しさや奥深さに触れ、以降免疫学講座にて学生時代から研修医時代に至るまで肺線維症の研究に非常に熱心に取り組み、その成果は呼吸器内科の基礎研究では最も権威あるAJRCMB誌に掲載されました。齊藤先生が本学卒業生として活躍する姿は非常に嬉しく、また頼もしく思います。今後の更なる活躍を心より期待するとともに、後輩たちにとっても大きな刺激となることを願っております。



生理学第二 教授 堀江 恭二

齊藤先生が学生時代に熱心に研究に取り組まれていたことは、よく存じておりました。それに加えて、私が担当していた生理学実習で、先入観にとらわれず率直な質問をされていたことが印象に残っています。そのような学問に対する真摯な姿勢が、学修や研究において一貫して発揮されていたのだと思いますし、その姿勢は在学生にとって良き手本となるはずです。齊藤先生のさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。



未来基礎医学 准教授 森 英一郎

齊藤先生は、学生時代は免疫学講座に通い、積極的に研究活動や発表に取り組んでいました。卒後の臨床でのトレーニングを通じて、色々なことに挑戦されています。海外リサクラで得た経験を、今後のキャリアの中でも存分に活かして欲しいと思います。



海外リサーチ・クラークシップ成果報告：帰国後報告会（3年生）＆研究成果報告会（4年生）（4月24日）

令和6年1月～3月に、2年次で海外8施設へ派遣された現4年生8名による研究成果報告会と、令和7年1月～3月に、同じく2年次で2施設へ派遣された現3年生2名による帰国後報告会を行いました。それぞれが海外で得た貴重な体験を、今後の研究や学びに活かしてくれることを期待しています。



最優秀賞 医学科4年 伊藤 晴加

発表演題：「ZnFはLCドメインのcross-βポリマーを認識し結合する」

所属研究室：未来基礎医学

海外留学先：Astbury Centre for Structural Molecular Biology, University of Leeds



本学に入学して以来、想像以上の研究活動に携わらせていただき、大変光栄に思っています。海外リサーチもその一つで、実習先では貴重な経験をさせていただきました。研究内容や研究姿勢に対する考え方について意見を交わすことも多く、手技の向上だけでなく考え方にも変化がありました。今後も海外の方との交流や研究活動を続けていきたいと思っております。海外リサーチに関わってくださった全ての方々に感謝申し上げます。

優秀賞 医学科4年 佐久間 隼人

発表演題：「奈良県住民健診データに基づく食事速度と糖尿病の関連についての歴史的コホート研究」

所属研究室：疫学・予防医学

海外留学先：Department of Biochemistry & Cardiovascular Research Institute (CVRI), Yong Loo Lin School of Medicine, National University of Singapore



この度は優秀賞をいただきましたことを、ご指導いただいた教官の方々、リサーチクラークシップ実施に関わられた全ての方々に感謝申し上げます。未熟な学部生である私であっても、自らが興味を持ったテーマの研究活動に対してサポートをいただけるこの環境は、決して当たり前ではないと感じています。ここまでを振り返ると、研究活動の際は悔しいことが95%、嬉しいことが5%といった様子でしたが、それでも研究の喜びが消えることはありません。この喜びを胸にどこまでも研究を続けて参りたいと存じます。

最優秀賞 医学科4年 和出 陽南

発表演題：「転写因子FOXO1のマクロファージ活性化における役割」

所属研究室：免疫学

海外留学先：University of Michigan Medical School



このたび、研究成果報告会にて最優秀賞をいただきました。海外リサーチでは実験手技にとどまらず、思うように進まない研究への向き合い方も学ぶことができました。帰国後はその経験を踏まえて新たな視点と意欲で研究に励み、このたび成果を発表できましたことを嬉しく思います。ご指導賜りました免疫学講座の先生方ならびに貴重な機会を提供して下さった海外リサーチ関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。今後もこの経験を糧に精進してまいります。

優秀賞 医学科4年 平岡 崇秀

発表演題：「ADAMTS13免疫複合体ELISAの開発と臨床への影響について」

所属研究室：輸血部

海外留学先：KU Leuven Campus Kulak Kortrijk



この度は研究成果報告会にて優秀賞をいただき、大変光栄に思います。ベルギーでの研究活動では、異なる文化的背景を持つ人々と議論を重ねる中で、自分自身の人生観や研究への向き合い方を見つめ直す貴重な機会となりました。この経験を糧に、今後も国際的な視野を持って課題解決に貢献できる研究者を目指します。また、多くの方々に支えられて研究できていることへの感謝の気持ちを忘れず、常に謙虚な姿勢で研究に向き合っていきます。

発表学生一覧（氏名・所属研究室・発表演題・留学先）

大平雅也（未来基礎医学）	「Aloe EmodinはGz/Mチェックポイントを阻害することで放射線増感する」 (Burma Lab, University of Texas Health San Antonio / アメリカ)
小西菜々子（未来基礎医学）	「近接依存性標識法を用いた Danon 病関連因子 LAMP-2 の相互作用因子の研究」 (Yokota Lab, Department of Medical Genetics, University of Alberta Faculty of Medicine and Dentistry / カナダ)
有野公人（消化器・総合外科学）	「脾臓摘出術における3種類の低侵襲手術の成績比較」 (National Taiwan University and National Taiwan University Hospital (Department of Surgery) / 台湾)
森田大智（薬理学）	「ラメラリンD投与によるインフラマソームへの影響」 (National Taiwan University and National Taiwan University Hospital (Department of Internal Medicine) / 台湾)

医学部長 嶋 緑倫

今回の報告会で特筆すべきは、全員が海外の経験を活かし、帰国後も研究マインドを維持しながら研究に取り組んでいた点です。発表内容はきわめてレベルが高く、すでに一人の研究者として研究を続けていることがわかり感心いたしました。なかなか優秀をつけるのが困難でしたが、最優秀賞の伊藤さんと和出さん、そして、優秀賞の佐久間君と平岡君は研究内容もですが、プレゼンも優れていました。皆さんのご活躍を祈っています。

未来基礎医学 准教授 森 英一郎

帰国したばかりの3年生と、帰国後の1年間も研究活動を継続してきた4年生による発表が行われ、学生による活発な質疑応答が行われました。今年度入学の1年生や、海外リサーチへの参加を希望する2年生が、報告会の様子を聞きにきていました。本プログラムを通じて本学学生が学部学生の時期から研究活動に触れ、研究に従事する経験を重ねることで、医学の発展に貢献する文化が徐々に醸成されてきつつあることを実感しました。

帰国後の報告をしてくれた医学科3年生



原田 昌（生化学）

派遣先：Molecular Genetics of Ageing Max Planck Institute for Biology of Ageing/ ドイツ



島田 龍一（生化学）

派遣先：Okinawa Institute of Science and Technology Graduate University(OIST)/ 沖縄

働き方改革だより

令和6年度職員満足度調査 結果報告

実施期間：令和7年2月10日～3月7日 回答率：93.3%

調査の結果について、一部をご紹介します。

仕事のやりがい・人事評価について

全体では**63%が現在の仕事にやりがい**を（とても＋やや）感じていると回答。

「どのような場合にやりがいを感じるか」の設問で回答が多かったのは、「**自分の経験・スキルを活かせる環境（71.7%）**」「**職場の良好な人間関係（46.4%）**」でした。

「仕事を行ううえでどのようなポイントに焦点を当てて評価すべきか」の設問（自由記述）では、「成果・貢献度（21.3%）」「意欲・勤務態度（20.8%）」に関する回答を多くいただきました。次いで、「評価基準や評価方法の見直し（19.2%）」についても多くご意見をいただきました。

日常的に上司・同僚・部下間で良好なコミュニケーションをとりながら、適切な指導・評価が運営されるような職場環境整備に向けて引き続き検討していきます。



デジタル技術を活用した業務改善（DX）や業務効率化の工夫について

「デジタル技術を活用した業務改善を実現したい業務」の設問（自由記述）では、バイタル測定結果等の電子カルテへの自動入力やAIを活用した診療機能の向上といった「医療DX」が最多意見でした。

「業務改善の工夫」の設問（自由記述）では、報告や連絡の方法、運用の見直し、手待ち時間の短縮、といった「業務の無駄・やり方の見直し」についても多く意見をお寄せいただきました。

今後の働き方改革の取組方針について

第4期中期目標・中期計画期間（令和7年度～12年度）



「誰もが働きやすく働きがいのある職場環境整備」の実現に向け、第3期中期計画からの継続取組事項（休暇取得推進や長時間労働の是正等）に加え、特に以下の事項に重点をおいて取り組んでまいります。ご協力をお願いします。

- 業務改善の推進
- デジタル技術を活用した業務改善の推進
- 36協定遵守のための対策
- 人事評価に係る評価基準及び評価方法の見直し検討

ハラスメントについて

今回、職員間のハラスメントを区分別に調査するとともに、カスタマーハラスメントについても調査を行いました。職員間のハラスメントではパワーハラスメントが最多、カスタマーハラスメントは職員の4人に1人が受けたと回答されました。

	パワーハラスメント	セクシャルハラスメント	アカデミックハラスメント	ファミリーハラスメント		カスタマーハラスメント
見聞きした	35.7%	10.3%	11.5%	11.7%	見聞きした	41.1%
受けた	22.5%	4.4%	6.2%	5.5%	受けた	25.1%

職場でのハラスメントは職員の就業環境に甚大な影響を及ぼします。調査結果を基に、職場内でのハラスメントに対する認識を高めるとともに、ハラスメント防止対策に努めてまいります。

満足度調査の結果は学内ホームページに掲載しています。ご協力ありがとうございました。

【学内専用＞人事課＞委員会・組合等＞働き方改革推進委員会】

当院でのタスクシフト／シェアの取組紹介

核医学領域におけるタスクシフト／タスクシェア

～看護師によるアイソトープ静脈内注射の実施で核医学診療の質の向上に繋げる～

放射線治療室・化学療法室・緩和ケアセンター 看護師 小柳 洋二

タスクシフトの経緯

負荷心筋血流シンチにおいては、タリウム製剤とテクネチウム製剤の2種類を選択でき、これまで当院ではタリウム製剤を使用していました。テクネチウム製剤のメリットは、検査のための絶食は不要となり、朝・昼絶食による患者の苦痛を軽減させることができます。また、画質がより鮮明となり特異度が大きく改善するため診断精度の向上が期待できます。さらに、患者の被ばく量が軽減されることから、日本核医学学会の指針でもテクネチウム製剤への切り替えが推奨されています。一方、デメリットとしては、医療従事者の被ばく量が増加する点と、午前と午後アイソトープの2回投与が必要になることです。循環器内科医師不足により医師による午後のアイソトープ投与が困難な状況であり、これまでテクネチウム製剤への移行はできていませんでした。令和6年度からの働き方改革制度に対する医師のタスクシフトの取り組みとして、看護師によるアイソトープ静脈内注射の実施が検討されました。

取り組みの実際

循環器内科医師、放射線科医師、診療放射線技師、受付、そして核医学診療看護師を含む核医学看護チームが連携してマニュアル作成を行いました。看護師の心筋シンチにおける静脈内注射マニュアルの内容としては、1. 実施する背景、2. 法的解釈、3. アイソトープ静脈内注射時のリスクマネジメント、4. 看護師の条件、5. 教育計画です。マニュアルに準じて核医学診療看護師を中心にアイソトープ静脈内注射研修プログラムを実施しました。10名の看護師がチェックリストを用いて循環器内科医師による技術認定を受け、2024年9



講演の様子

月よりテクネチウム製剤へ完全移行することができました。放射線被ばく防護に関しては、γ線の遮蔽率が7割を超えるアイソトープ用プロテクターを2着購入いただき、看護師の放射線被ばくを低減することができています。アイソトープの静脈内注射を医師から看護師へタスクシフト／タスクシェアすることにより、その結果、これまで導入困難であったテクネチウム製剤を用いた負荷心筋血流シンチが可能になりました。

この取り組みは2024年11月に横浜で開催された第64回日本核医学会学術総会の看護フォーラムにて招待講演を行い、看護師のみならず様々な職種の方々から大きな反響を得ることができました。日本核医学学会関連の招待講演を2024年度は2回行い、2025年度は3回を予定しており、当院の核医学診療の取り組みを院外へ発信しています。



手技の風景

今後の展望

多職種で連携し看護師によるアイソトープ静脈内注射マニュアルを築き上げることで、医師から看護師へタスクシフト／タスクシェアし、患者にとってより良い核医学診療へ繋げることができました。核医学診療において、正しい知識や技術を持った看護師の存在は必要不可欠であり、今後更なる看護師の教育体制の構築が望まれます。

医師の言葉

負荷心筋血流シンチにおいて、医師側の都合でテクネチウム製剤への切り替えをできず悩んでおりましたが、看護師さんのタスクシフトの支援により切り替えを実現することができました。患者さんのストレス軽減、画質の向上を実感することができ、看護師さんのタスクシフトに対する積極的なご理解とご協力に深く感謝申し上げます。

循環器内科 中川 仁

謝辞

この取り組みに理解を示し温かいご支援を賜りました中村師長をはじめ、ご協力いただいた看護師の皆様、診療放射線技師の皆様、関係者の皆様、そして、ご指導賜りました循環器内科中川先生に心より感謝申し上げます。



核医学チームの皆さん

看護部の紹介

未来を切り拓く力に ―専門看護師・認定看護師という選択―

看護部 創傷相談室 皮膚・排泄ケア認定看護師 西林 直子

◆専門・認定看護師による高度実践と教育的役割の発揮

当院では 2021 年より「認定看護師ワーキング」が立ち上がり、2025 年度からは「専門・認定看護師会」として再始動しました。2025 年 4 月現在、奈良県立医科大学附属病院には 3 分野 9 名の専門看護師と、14 分野 31 名の認定看護師が在籍しており、それぞれの専門領域で高度な看護を実践しています。さらに、診療補助に関する特定行為研修を修了した「特定認定看護師」も在籍しており、より専門的かつ包括的なケアを提供しています。

当院における専門看護師、認定看護師の看護職員における割合は、全国平均に比べ高く、県内の医療・看護の質向上への貢献が大いに期待されています。資格取得時の平均年齢は 35.6 歳と、看護師としてキャリアの中盤に差し掛かる時期の挑戦が多く見られます。また現在在籍している専門看護師、認定看護師のうち、およそ 6 割が資格取得後 10 年以上の実績があり、貴重なリソースとして活躍の場を広げています。また、これらの看護師たちは、看護実践・キャリア支援センターや本学医学部看護学科とも連携しながら後進の育成やケアの質向上に寄与しています。

専門・認定看護師会では、資格取得を目指す看護師への情報提供や支援体制の整備、スキルアップ講座の開催などを通じて、次世代育成に力を入れた取り組みを行っています。

◆次世代を担う看護師の育成支援

「専門性」を磨くことは、看護の本質に立ち返り、患者一人ひとりに最適なケアを届ける力を高めることです。専門看護師、認定看護師としての積み重ねる経験や学びは、自身のキャリアに確かな軸となると同時に、組織全体の質を押し上げる原動力となります。

一歩を踏み出す勇気、未来への挑戦。看護部では、志をもつすべての看護師の挑戦を、心から応援しています。

(2025.4 現在)

専門看護師	在籍人数
がん看護	5
急性・重症患者看護	1
小児看護	3
計	9

認定看護師	在籍人数
クリティカルケア	6
皮膚・排泄ケア	5
脳卒中リハビリテーション看護	2
認知症看護	2
摂食嚥下障害看護	2
新生児集中ケア	2
手術看護	2
緩和ケア	2
感染管理	2
がん放射線療法看護	2
救急看護	1
がん薬物療法看護	1
乳がん看護	1
がん化学療法看護	1
計	31



全領域の専門・認定看護師が集う年 2 回の連携・交流会

がん相談支援センターのご案内 ―早期の支援が、患者さんの安心につながります―

がん相談支援センター がん看護専門看護師 中濱 絢

がん相談支援センターは、がんと診断された患者さんやご家族が抱える不安や悩みに寄り添い、治療や制度の情報提供、精神的なサポートなどを行う窓口で、全国のがん診療連携拠点病院などに設置されています。当院にはがん看護専門看護師と社会福祉士が専従で配置されており、医療・福祉の両面から支援を行っています。そのような中、全国調査にてセンターの認知度が低く治療前に不安を抱える患者さんが多いという結果が公表され、令和4年8月厚生労働省より、初診から治療開始までの間にすべての患者さんが一度はがん相談支援センターを訪れる体制づくりが求められるようになりました。

当院においても、2023年度に3,023名ががんと診断されましたが、2024年度の相談件数は約1,300件にとどまっており、さらなる周知が必要です。相談内容は、社会・経済的な問題が最も多く、次いで精神的な不安、治療や診断に関することが多く寄せられています。特に、告知直後や再発時などには、揺れ動く気持ちを抱えておられる患者さんやご家族の価値観に沿った意思決定支援が重要となります。

診療の限られた時間の中で対応しきれないような精神的なフォローや意思決定支援、制度の活用支援などを通じて、診療の一助となるよう患者さんやご家族をサポートしています。相談は無料で予約も不要です。患者さん、医療者ともに気軽にご利用いただける窓口です。なお、相談者のプライバシーと権利を最優先に尊重し、相談者の了解を得た範囲で診療に役立つ情報を共有するとともに、患者さんと医療者を繋ぐ橋渡し役となれるよう努めています。

皆さまにはぜひ当センターの存在をお伝えいただき、患者さんが早い段階で支援につながるようご協力をお願いいたします。



先端医学研究支援機構だより

研究力向上支援センターからのお知らせ

令和7年度AMED獲得セミナーを開催しました

当センターでは例年科研費の申請助成事業として科研費獲得セミナーを開催してまいりましたが、加えて、本年は新たにAMED獲得セミナーを開催しました。

2025年6月6日(金)に日本医療研究開発機構(AMED)の職員を本学に迎え、AMED外部資金獲得に向けたセミナーを開催しました。講師の塩塚政孝先生(AMED 橋渡し・臨床加速事業部 主幹)は、基礎から臨床までの研究段階に応じた切れ目のない支援メニューと橋渡し研究支援機関(拠点)が伴走して研究開発を推進することを特徴とする「橋渡し研究プログラム」事業で、アカデミア発の革新的医療技術の実用化に尽力されてきました。今回は、「橋渡し研究費獲得の“有効成分”とは?橋渡し研究支援プログラムの紹介」と題し、採択に向けてどのような視点で提案書をまとめていくか、これまでの経験を踏まえた実践的なお話を伺う貴重な機会となりました。また、講演に先立って、本学の研究者の先生方との面談の機会も設けることができ、今後AMED外部資金の獲得に向けてどのように準備していくべきかを知る大変有意義な時間となりました。



講師 AMED 塩塚政孝主幹

研究力向上支援センターに富樫URAが着任されました

研究力向上支援センター URA 担当特命講師 富樫 英

6月1日付で研究力向上支援センターに着任いたしました富樫英と申します。

京都大学理学部を卒業後、京都大学大学院生命科学研究科にて、カドヘリンの発見で著名な竹市雅俊先生のもと、細胞間接着に着目して神経細胞の形態形成メカニズムに関する研究で学位を取得いたしました。その後、神戸大学大学院医学研究科の高井義美先生のもとで、感覚器の形態形成をモデルに、分子・細胞から組織レベルに至る研究に取り組んでまいりました。

今後は、研究支援を主軸とする新たな環境でのスタートとなりますが、これまでの経験を活かし、本学の研究の発展に貢献できるよう、より一層努力してまいります。

関係各位におかれましては、今後ともご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



(左より) 垣脇成光 URA、富樫英 URA 担当特命講師、上村陽一郎 URA 担当特命教授

先端医学研究支援機構だより

医学研究支援センターからのお知らせ

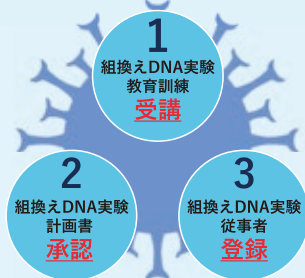
組換えDNA実験施設における研究支援活動

組換えDNA実験施設は、医学・生命科学研究を安全かつ効率的に実施するための研究基盤を完備しています。本施設の強みは「カルタヘナ法」に則り厳密に管理された環境で遺伝子組換え可能な実験室を有している点です。これにより、実験者だけでなく、周辺環境の安全も確保しつつ、信頼性の高い研究を行うことが可能です。

さらに、当施設には最新の実験機器が整備されており、研究者の多様なニーズに対応しています。具体的には、細胞の分取・解析機器類 (SONY SH800、SONY SA3800、FlowJo など)、核酸の解析・定量機器類 (SeqStudio、StepOnePlus、QuantStudio Absolute Q など)、タンパク質等の解析・定量機器類 (FUSION-SOLO.7S.EDGE、MolecularDevices SpectraMax iD3 など) が揃っています。

2025年4月より新たな教員・技術員も着任し、スタッフ一丸となって利用者の皆様のサポートに取り組んでまいります。組換えDNA実験の計画書作成～実施 (図参照)、そして機器の取り扱い方法など、お困りのことがありましたら、どんなことでも遠慮なくお問い合わせいただければ幸いです。

その組換えDNA実験 ちょっと待って!!



「確認」組換えDNA実験する前に

1つでも当てはまらなかったら
「規程違反」になり、組換えDNA実験はできません

奈良県立医科大学
組換えDNA実験安全委員会

奈良県立医科大学
組換えDNA実験施設



ラジオアイソトープ (RI) 実験施設における実験支援活動

ラジオアイソトープ (RI) 実験施設では、「放射性同位元素等の規制に関する法律 (RI 規制法)」を遵守し、適正な施設運用を行っております。研究技術の発展に伴い、RI 試薬を使用する機会は少なくなっていました。それでも高感度で原子レベルの標識ができる RI の魅力は失われていません。特に、核医学の分野では、新規化合物が次々と開発され、臨床応用に発展しています。本学でも、クリニカルクエスションの解決に向けた基礎研究において、RI 施設をご活用いただけますので、ぜひご検討ください。

一方、当施設は、RI を使わない実験 (non-RI 実験) の「共用実験スペース」としても活用いただいています。蛍光顕微鏡、共焦点レーザー顕微鏡、ケミルミ発光検出などの高額機器が充実しています。また、細胞培養設備をはじめ、各種遠心機、X線照射装置、クリオスタット、ホモジナイザー、凍結乾燥機、pH メーター、低温室など、汎用性の高い機器や設備も充実しています。RI 登録した方はどなたでもご利用いただけます。事前にご相談いただければ、機器の取扱いサポートを含めた一連の実験サポートも可能です。幅広い研究のお役に立てるように取り組んでいますので、まずご相談ください。

動物実験施設における動物実験支援活動

本学動物実験施設では、日本で定められた法令・基本指針・ガイドラインおよび機関内規程を遵守し、適正で安全な動物実験の実施ができるように、利用者に対して、「動物実験に関する教育訓練」や「動物実験に関する基本手技の紹介」を行っており、動物実験を初めて実施される方や利用者の研究活動の一環として実施される動物実験に関する内容 (動物実験計画の立案、動物実験の手技、など) についてのサポートを必要としている方の支援をしております。

2024年度は、動物実験施設に「X線照射装置 (MX-160Labo)」および「X線透視装置 (OPESCOPE ACTENO)」が導入されました。骨髄移植実験や癌など疾患モデルに対するX線照射治療に関する実験、経時的なイメージング解析など、多岐にわたる動物実験に活用可能です。多くの利用者の研究活動にご利用いただければと思います。

また、2024年度まで試験的に実施しておりました生殖工学技術を利用した遺伝子改変マウスの系統保存事業について、2025年4月より本格的に始動しました。各講座で飼育維持されている遺伝子改変マウスの凍結精子・凍結胚の作製、体外受精・個体復元、その他 (顕微授精など) について希望される方は、是非とも動物実験施設へお問い合わせいただき、自身の研究活動に役立てていただければと思います。

その動物実験 ちょっと待って!!



「確認」動物実験をする前に

1つでも当てはまらなかったら
「規程違反」になり、動物実験はできません

奈良県立医科大学
動物実験委員会

奈良県立医科大学
動物実験施設



承認得てますか？ 遺伝子組換え動物



「承認」動物実験をする前に

1つでも当てはまらなかったら
「法令・規程違反」になり、遺伝子組換え動物実験はできません

奈良県立医科大学
動物実験委員会

奈良県立医科大学
動物実験施設



医療機関における AI 利用者ガイドラインについて

戦略的医療情報連携推進講座・教授／医療情報部・部長 玉本 哲郎

みなさんは、「AI 事業者ガイドライン」の存在を知っていますか。最近の AI（人工知能）技術の進化は目覚ましく、医療の現場においても診断支援や事務処理の自動化、患者対応の効率化など、さまざまな形で導入が進んでいます。こうした中で、総務省と経済産業省は 2024 年 4 月に「AI 事業者ガイドライン（第 1.0 版）」1) を公表し、さらに 2025 年 3 月に（第 1.1 版）2) に改変されています。AI を「開発する者」「提供する者」「利用する者」の 3 者それぞれに求められる倫理的・法的・技術的責任を明確にしています。AI 利用者は、AI 提供者が意図した範囲内で継続的に適正利用、必要に応じた AI システムの運用を行うことが重要であり、より効果的な AI 利用のために必要な知見を習得することが期待されています 3)（図 1）。

今回、医療現場で AI を実際に使用する「AI 利用者」に焦点を当て、医療機関内での研修にも用いられる実践的なガイドラインの要点を紹介します。

医療機関における AI 利用者とは誰か？

医療機関における AI 利用者とは、AI が搭載されたシステムやサービスを業務の中で活用する医師・看護師・薬剤師・事務職・経営者などを指しています。例えば、放射線画像診断において AI が提示する読影結果を参考にする医師や、音声入力によるカルテ記載補助を行う医師および看護師などが該当します。AI 利用者は、常に最終的な判断者として「**AI の出力を鵜呑みにせず、人間の責任で意思決定を行う**」ことが求められます。

利用時に求められる基本原則

ガイドラインに基づいて、医療機関における AI 利用者が遵守すべき基本原則として、以下の 5 つが示されます。

1) 目的と制限の理解

使用する AI がどのような目的で開発され、どの範囲までの判断が可能かを把握する必要があります。過度な期待や誤用を避け、利用範囲を明確にします。

2) 人間中心の意思決定

AI はあくまで「判断の補助ツール」であり、最終的な診断や治療方針の決定は人間が行うべきです。「AI が言っているから」ではなく「自分がどう判断するか」が常に問われます。

3) プライバシーと情報セキュリティ

AI を使って患者データを処理する際には、個人情報の適切な取扱いが必要です。特に、クラウド型 AI など外部と連携する場合は、暗号化やアクセス管理が重要です。

4) バイアスと公平性への配慮

AI は学習データに由来するバイアスを持つ可能性があります。性別や年齢、人種などの属性により AI の挙動が偏る場合、利用者はその影響を理解し、判断を補正する必要があります。

5) 利用記録と改善への関与

AI を利用した際の出力内容や判断の経緯をカルテなどに記録し、万が一不具合があった場合は報告・フィードバックを行うことで、安全性の向上に貢献できます。

実践例と注意点

例えば、AI による胸部 CT の異常陰影検出を使用する場面では、AI が示した所見に対して医師が必ず読影し直し、総合的に判断する必要があります。AI は誤認も起こしうるため、過信せず、常に「参考情報」として活用すべきです。また、生成 AI（ChatGPT 等）を用いて患者説明文や案内文、さらに診療記録の要約を作成する事例も増えていますが、この場合も生成内容を人間が精査し、医学的誤りや表現の不適切さがないかを確認する責任があります。

教育とガバナンスの重要性

医療機関において AI を適切に活用するためには、現場職員に対する AI リテラシー教育が不可欠です。AI の仕組みや限界、誤用リスクを理解することで、現場での混乱を防ぎ、安全で信頼される医療提供が実現できます。加えて、院内では AI 活用に関するルールやポリシーを明文化し、多職種チームで合意形成を行うことが望まれます。記録管理やインシデント対応、患者説明時の対応ルールなどを含む包括的な AI ガバナンス体制の整備が求められます。

おわりに

AI は医療の質と効率を高める大きな可能性を持っていますが、**その活用には「人間による適切な制御」が前提であり、利用者が責任ある姿勢で AI を扱うことが不可欠です**。今回紹介したガイドラインは、医療現場の AI 利活用を推進する上での第一歩として、多くの医療機関で活用されることが期待されます。本学でも、このガイドラインを参考にしつつ、附属病院における AI 利用者ガイドラインの作成が必要であると考えています。今後、診療で AI を利用していく機会が増えるにあたり、「AI 事業者ガイドライン」の一読をおすすめします。

参考文献

- 1) AI 事業者ガイドライン（第 1.0 版）令和 6 年 4 月 19 日 総務省・経済産業省 https://www.soumu.go.jp/main_content/000943079.pdf
- 2) AI 事業者ガイドライン（第 1.1 版）令和 7 年 3 月 28 日 総務省・経済産業省 https://www.soumu.go.jp/main_content/001002576.pdf
- 3) AI 事業者ガイドライン（第 1.1 版）概要 令和 7 年 3 月 28 日 総務省・経済産業省 https://www.soumu.go.jp/main_content/001000989.pdf

AI 利用者に関する事項	
AI システム サービス 利用時	U-2) i. 安全を考慮した適正利用
	U-3) i. 入力データ又はプロンプトに含まれるバイアスへの配慮
	U-4) i. 個人情報の不適切な入力及びプライバシー侵害への対策
	U-5) i. セキュリティ対策の実施
	U-6) i. 関連するステークホルダーへの情報提供
	U-7) i. 関連するステークホルダーへの説明
	U-7) ii. 提供された文書の活用と規約の遵守
高度な AI システムを取り扱う AI 利用者は、「第 2 部 D. 高度な AI システムに関与する事業者」に共通の指針について、1) ～ X1) を適切な範囲で遵守し、X1) について遵守すべき	

図 1. AI 利用者に関する事項（文献 3）より改変して引用）

2.15

奈良県難病診療連携拠点病院 難病医療従事者研修会を開催しました

2月15日に難病医療従事者研修会をWeb配信で開催しました。脳神経内科 杉江和馬教授から「ALS（筋萎縮性側索硬化症）の診療と協働意思決定を考える」と題してALSの症状や最新の治療研究について、また「新しいALS観」をふまえた多職種連携や協働意思決定の重要性について講演いただきました。続いて、小児科 榎原崇文助教から「小児期発症の難病（神経筋疾患）～最近の話題～」と題して乳児重症ミオクロニーてんかん・脊髄性筋萎縮症の症状や治療、小児から成人への移行期における意思決定に必要な支援、医療的ケア児の災害対策について講演いただきました。

今後も難病医療向上のため、医療関係者を対象とした研修会を開催いたします。



杉江和馬教授



榎原崇文助教

3.19

ESC Heart Failureの最多引用 論文トップ10に選出されました

循環器内科学 診療助教 経堂 篤史

この度は、2023年に国際的医学誌ESC Heart Failureに掲載された論文「Heart failure with preserved ejection fraction phenogroup classification using machine learning」が、同年の最多引用論文トップ10に選出されました。

本研究は、複雑な病態を示す心機能が保持された心不全（HFpEF）に対し、当科の心不全コホートデータと機械学習を用いて患者を3グループ（「動脈硬化・慢性腎臓病」「高齢・心房細動」「若年・左室肥大」）に分類、各臨床像と予後を明らかにし、全国規模のHFpEFコホートで検証したものです。

この度の選出は、本研究結果がHFpEFの病態理解と個別化医療への貢献を示すものとして国内外で広く注目された証であり、大変光栄に存じます。本研究にご協力、ご指導いただきました全ての共同研究者の皆様
に心より感謝申し上げます。



3.28

第89回日本循環器学会学術集会で 発表しました

医学科6年 井澤 美保

3月28日から3月30日にかけてパシフィコ横浜で開催された、第89回日本循環器学会学術集会におきまして、「Improved cardiac function and life expectancy by re-expression of Lamin A in Lmna-related genetic dilated cardiomyopathy model mice」という演題で口述発表を行ってまいりました。

本研究の内容は、拡張型心筋症の表現型を呈するLmna-/-マウスの心筋細胞においてLamin Aを強制発現させることで、心筋細胞の代謝系経路が改善し、心機能および生命予後が向上するというものです。私は2年生から循環器内科学の研究室に所属し、先生方のご指導の下、遺伝子発現解析をはじめとした循環器疾患の基礎研究に携わってまいりました。本学会での発表を通して、自身の研究成果をいかに分かりやすく伝えるかを学ぶことが出来、また、学外の先生方から今後の研究の発展に繋がる貴重なご意見をいただくことが出来、非常に有意義な経験となりました。

最後になりますが、大変お忙しいにもかかわらず、日頃より熱心なご指導を賜っております、彦惣俊吾教授、尾上健児先生はじめ循環器内科学講座の先生方に厚く御礼申し上げます。



4.25

大阪南消防組合柏羽藤消防署から 感謝状が贈呈されました

卓球部 奥田 実登、樋渡 竜児、小泉 智花

1月19日に羽曳野市で行われた市民卓球大会において、心筋梗塞で倒れた傷病者を、大会に参加していた卓球部員3名が、他の参加者の方々と協力し救助することができました。我々卓球部員3名は、人形に対してはCPRの訓練を行っていたものの、実際に生身の人に行うことは初めてだったこともあり、なかなか冷静には対応できず、後々こうしておけばよかったと思う点も多くありました。結果として無事に搬送され、後に特に大きな後遺症もないと分かり、それを聞いた時とても安堵し、表彰式に元気なお姿で来られお会いできた時は、非常に嬉しく思いました。今回の一件で、早期におけるCPRの大切さ、人の命の尊さをより一層実感しました。これからの学生生活においてもこのことを忘れずに、一層学びに励んでいきたいと思っております。



表彰式での学生と被救助者

4.21 MBT 特命教員による学生への特別講義

本学では、MBT の目標である産業と医学を結びつけ、イノベーションを起こす実力又は実績があると認められる方に MBT 特命教員の称号を授与しています。現在、6 名の方々に MBT 特命教員に就任いただいております。ご自身の豊富な人生経験をもとに毎年 1 回本学の学生に、幅広い視野を持つ人間に育成されるよう講義をしていただいております。今回は下記 4 名の先生の講義をご紹介します。

4.21 MBT 特命教授 (元パナソニックホールディングス取締役会長) 長榮 周作

講義「剣道と経営」では、自身の剣道経験と経営者人生を重ね、「自律・考動」や「守破離」の精神、自ら変化に適應する力の大切さを語られました。剣道を通じた人間形成と企業経営の共通性を説き、模擬刀を使った実演も実施。医学科 1 年生に向けて熱い激励を送られました。



4.28 MBT 特命教授 (元城南信用金庫理事長) 川本 恭治

講義のタイトルは「信用金庫を知っていますか!？」で、医学生に対して信用金庫の仕組みと社会的役割、さらには信用金庫が抱える課題に触れつつ、地域密着型の営業姿勢や社会貢献活動についてご紹介いただきました。東日本大震災を契機に始めた「よい仕事おこしフェア」などの取り組みも紹介。信用金庫と医師は「困っている人を助ける」という共通の使命があると語り、学生たちを激励されました。細井理事長との出会いから、高齢者の聴力を補う軟骨伝導イヤホンの普及に関わったエピソードも紹介されました。



5.26 MBT 特命教授 (DMG 森精機 代表取締役) 森 雅彦

講義タイトルは「MX ～ DMG 森精機の経営ビジョン～」で、世界的工作機械メーカーとしての事業展開や、医療分野への関与について紹介されました。インプラントや人工関節に対応する高精度加工設備の説明もありました。森先生はグローバルな経営と先進的な製造拠点について語り、学生に対し英語力の維持、国際的マナー、バランスの取れた人間性の重要性を強調。「即今・当処・自己」の行動指針や、「よく遊び、よく学び、よく働く」の姿勢で生きることの大切さを伝えられました。



6.16 MBT 特命教授 (ファッションデザイナー) コシノ ジュンコ

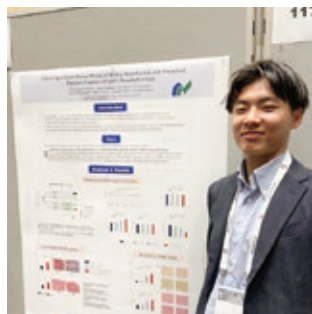
1978 年のパリ・コレを皮切りに、アジアや中南米でも活躍し、大阪万博ではユニフォームデザインを手がけるなど多彩な実績を紹介。講義では、「人生は元気がすべて」「異業種の人との出会いを大切に」といったメッセージを学生に伝えられました。また、感性やセンス、感謝・希望・健康などを含む「人生の教訓“か・き・く・け・こ”」も紹介され、医学科 1 年生に向けて前向きな人生の姿勢を熱く語られました。



5.14 ISHR でポスター発表を行いました

医学科 5 年 譲尾 進之介

5 月 14 日に奈良市で開催された ISHR (International Society for heart Research) において、「Exploring a Novel Mouse Model of Skinny Heart Failure with Preserved Ejection Fraction (HFpEF) Prevalent in Asia」という演題でポスター発表をまいりました。この学会は世界中で心血管系の研究を行っている研究者たちが自身の研究内容を持ち寄り、互いに意見交換をすることでその分野の発展につなげるための催しです。普段は紙面でしか感じられない海外の研究者の存在ですが、直接 discussion することで新たな知見を得られ、非常に良い刺激となりました。最後になりますが、日々ご指導いただいております、彦惣俊吾教授、中田康紀先生はじめ循環器内科学講座の先生方に厚く御礼申し上げます。



5.21 奈良臨床漢方医学セミナーを開催しました

大和漢方医学薬学センターでは、医療従事者を対象に奈良臨床漢方医学セミナーを開催しております。

今回は本学耳鼻咽喉・頭頸部外科学 北原教授の司会で、兵庫医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師 任智美先生に「味覚外来における漢方診療」というテーマでご講演をいただきました。任先生の診療経験から漢方の活用方法などをお話いただき、受講者は熱心に聴講する姿や、活発な質疑応答をする姿も見られました。今後も漢方に関するセミナーを予定しております。一斉メール等でお知らせしますので、多くの先生方のご参加をお待ちしております。



座長を務める本学北原教授



講演を行う兵庫医科大学講師 任智美先生

5.20

NAIST メディルクス研究センター、 奈良県立医科大連携ワークショップを開催しました

本学と奈良先端科学技術大学院大学は一般社団法人奈良先端医工科学連携機構を昨年 12 月に設立し、本年 3 月 26 日付で文部科学省より「大学等連携推進法人」の認定を受けました。今回、大学等連携推進事業の一環として、NAIST メディルクス研究センター、奈良県立医科大連携ワークショップを開催しました。奈良先端大のメルディクス研究センター 細川センター長を中心に各分野の先生方にご講演をいただきました。オンラインと会場でたくさんの方に参加いただき、講演後の質疑応答も活発に行われました。講演会後には、研究者同士の懇親会も開催され、様々な意見交換や交流が行われました。

今後も本学と奈良先端大の連携を深め、学術・研究活動のさらなる発展に貢献できるよう、様々な取り組みを積極的に推進していきます。



講演される奈良先端大 笹井 紀明准教授



懇親会の様子

5.28

白衣授与式を開催しました

5 月 28 日に、看護学科 1 年生 84 名を対象に白衣授与式を執り行いました。

学生は白衣を着用し、教員による身だしなみ指導を受けたうえで式に臨み、学生を代表して総代の山内さんが、演習や実習に臨むことへの意気込みを話しました。また、川上看護学科長と五十嵐看護教育部長から、白衣を身にまとうことの意味を理解し、本学でしっかりと看護について学んでほしいと激励のメッセージが送られました。

学生は凛然とした姿で式に参加しており、これから白衣を着用して学んだことを社会に出て実践する様子が想像でき、学生の将来が楽しみになりました。



意気込みを話す総代



授与式後の記念撮影

6.7

第7回わい和いNARA 在宅サポート 研究会研究発表会を開催致しました

今年は、畝傍山キャンパスにて、在宅看護特別教育プログラム生を主体とした運営委員のもと、今後の自然災害への備えについての活発なディスカッションとなり、有意義な研究発表会となりました。今年度も、多職種、地域住民の方、約100名近くのご参加をいただきました。

小竹久実子会長の開会挨拶に続き、第7回の大会長（池之畑直子）からは自然災害に備えた地域や訪問看護での準備の重要性と対策についてのご講演、80周年記念イヤー部会長（武田真幸）挨拶、シンポジウム（行政の本木氏、医療的ケア児の響氏他）、パネルディスカッション（能登の中村氏、奈良医大附属病院の堀氏他）、8演題のポスター発表を行いました。初めてのキッチンカー5台の出店もあり、「わい和い」と楽しく交流ができました。



6.14

大学院看護学研究科のオープン キャンパス 2025 を開催しました

大学院看護学研究科のオープンキャンパスを6月14日に開催しました。今年は45名にご参加いただき、大盛況に終えることができました。プログラムとしては、「看護学研究科長の挨拶」、「コースの概要説明」、「個別相談会」、「先輩との座談会」等を行いました。参加者からは、「大学院の事を楽しそうに話されていたのが印象的でした。」や「授業や研究について詳しく教えていただきイメージができました。」などの感想が聞かれました。

令和8年度の入学試験は、8月25日（月）（二次募集：12月1日（月）※）に実施されます。

※一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。



オープンキャンパスの様子

6.17
6.19

なかよし保育園において一次救命 処置の講習を行いました

なかよし保育園のプール開きを前に、今年も保育士22名を対象に、当院の感染管理認定看護師（中村明世＝日本赤十字社 幼児安全法指導員）による講習が行われました。日本赤十字社幼児安全救急法に基づく乳幼児の一次救命処置（心肺蘇生・AEDの使用方法・気道異物の除去）について、状態確認、周囲への協力依頼、蘇生実習等を実践形式で学びました。万が一の緊急時にも迅速に対応できるよう、日頃から備えることの大切さを再確認する機会となりました。



心肺蘇生



気道異物の除去

6.26
6.27

公的研究費の適正使用に係る研修会を 受講してください (Web 動画)

6月26・27日に四条キャンパス基礎第1講義室及び畝傍山キャンパス大講義室において「公的研究費の適正使用に係る研修会及び経理事務等説明会」を開催しました。統括管理責任者の柗井副理事長より、研修を通じて研究者ひとりひとりが規範や倫理観を養い、責任感を持って研究活動を行っていくようにとのお話がありました。質疑応答も行われ、普段の業務での疑問点を解決いただく機会となりました。

本学では、公的研究費の運営・管理に関わる全ての構成員がコンプライアンス教育を受講する必要があります。受講対象者で、対面開催に参加できなかった方は、8月31日までWEB上で動画を公開していますので、視聴いただき、必ず理解度チェックテストを受けてください。公開URLはこちらです。

URL: <https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=Bycr8C9qr0OIGn2b3leOnT8zJlJt4e9Ju2k8gUtyNSpUOUFEMFNKSFLYSVZDM1dPTFQ4WTFBTFVQRS4u>



Winner Report

4.10

2024年度「日本医学放射線学会研究助成」表彰

放射線診断・IVR学 助教 南口 貴世介

第84回日本医学放射線学会総会に於いて、「肝動脈化学塞栓術が引き起こす肝細胞癌の免疫微小環境変化：免疫療法とのシナジー効果の解明」の研究が日本医学放射線学会の選考委員会にて厳正なる審査の元、2024年度「日本医学放射線学会研究助成」に相応しい研究と認められ表彰されました。本研究は、肝細胞癌の動物モデルに対するカテーテル治療が引き起こす腫瘍内免疫微小環境について検討を進める予定にしています。この場をお借りしてご指導いただいた田中利洋教授、放射線診断・IVR学講座の先生方に感謝申し上げます。



4.19

第9回高木賞臨床研究奨励賞を受賞しました

皮膚科学 講師 宮川 史

この度、マルホ・高木皮膚科学振興財団より、研究課題「薬剤性過敏症候群と他疾患におけるサイトメガロウイルス感染症のリスク因子の相違の検討」に対して、高木賞臨床研究奨励賞を賜りました。薬剤性過敏症候群（DIHS）はサイトメガロウイルス（CMV）感染症を高率に合併し、最も予後を規定することが知られています。最近我々は、他の薬疹患者ではステロイド投与量がCMV感染症のリスク因子であるのに対し、DIHSではCD8 T細胞数がリスク因子であることを報告いたしました。本研究課題ではこれをさらに発展させる所存です。当科の重要な研究課題であるDIHSの臨床研究に15年近く従事させていただき、長年の疑問の解明に少し前進できたことを非常に喜ばしく思います。このような機会を与えて下さった浅田前教授を始め、研究に協力いただいた教室職員の皆様に深く感謝申し上げます。



4.19

ERAS Japan Best Practice Award 第3位を受賞しました

医学研究科博士課程 侵襲制御・生体管理医学 佐藤 眞理子

この度、日本ERAS学会第3回学術集会において、「プレハビリテーションの実現可能性に向けた取り組み」のケースレポートに対して、ERAS Japan Best Practice Award 第3位を受賞しました。今回の受賞を励みとして、今後も臨床および研究に邁進していく所存です。本受賞にあたり、ご指導いただきました川口教授、位田先生をはじめ、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



5.22

国際ソロプチミスト奈良一あすか女性研究者賞を受賞されました

国際ソロプチミストは、女性と女児の生活と地位を向上させるための奉仕活動を行い、世界の様々な女性の地位向上を目指す組織です。国際ソロプチミスト奈良一あすかクラブでは、将来性のある研究を行う優秀な女性を表彰する目的で女性研究者賞を創設しています。本学からは、奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞を受賞した研究者を毎年推薦しています。

この度、解剖学第一講座の井上浩一教授ならびに女性研究者・医師支援センターから推薦を受けた堀井謹子講師が、「起こるかもしれない脅威から身を守る神経回路：強迫性障害との関連」という研究テーマで、国際ソロプチミスト奈良一あすか女性研究者賞を受賞されました。



(左) 国際ソロプチミスト奈良一あすか 田中康予会長
(右) 解剖学第一講座 堀井謹子講師

5.14

奈良県立医科大学医学部医学科同窓会 海外留学助成金 厳樞学術奨励賞 受賞者決定

令和7年度厳樞学術奨励賞の受賞者が決定しました。この賞は、母校の発展の一助とするため、海外での学術の研究、調査等に従事する者に対し、同窓会がその費用の一部を助成金(100万円)として支給しているものです。

今回の受賞者は、消化器・総合外科学の土井駿介先生です。令和7年6月1日から2年間の予定で、アメリカのコロラド大学アンシュッツメディカルキャンパスに留学されています。



5.22

国際ソロプチミスト奈良一あすか大学院 女子学生奨学金クラブ賞を受賞されました

国際ソロプチミスト奈良一あすかでは、大学院女子学生を対象として、将来社会に貢献し得る人材を育成するための奨学金を設置しています。本学では、女性研究者・医師支援センターが主体となり、毎年1名の候補者を学内で選考しています。

本年度は、放射線診断・IVR学講座の田中利洋教授から推薦を受けた丸上亜希先生(医学研究科 博士課程3年)が、「マイクロバブルを用いた造影超音波と造影MRIを用いた乳房粘液癌と線維腺腫の鑑別—造影剤の挙動の違いに着目して—」という研究テーマで、国際ソロプチミスト奈良一あすか大学院女子学生奨学金クラブ賞を受賞されました。



(左) 国際ソロプチミスト奈良一あすか田中康子会長
(右) 放射線診断・IVR学講座 丸上亜希助教

6.1

SIO 2025 年 Grant Recipients に 選出されました

この度、放射線診断・IVR学講座の田中利洋教授が SIO (Society of Interventional Oncology) 2025 年 Grant Recipients に選出されました。本助成金はリピオドールを用いた免疫療法の新規ドラッグデリバリーシステムの開発と応用を進展させることを目的としたものです。今回の受賞は、これまで当講座が積み重ねてきた基礎研究の成果が評価されたものであり大変喜ばしいニュースです。本研究の共同研究者は、当講座の南口貴世介先生と、米国 MD アンダーソンがんセンターの Rony Avritscher 先生です。

SIO Society of Interventional Oncology

Congratulations to Our 2025 Grant Recipients

The Society of Interventional Oncology (SIO) is pleased to announce the recipients of the 2025 grants focused on Lipiodol-mediated locoregional delivery of immunotherapeutics.

These grants fund investigator-initiated studies aimed at advancing the use of Lipiodol as a carrier for image-guided immunotherapy in solid tumors, and are supported by an unrestricted educational grant from Guerbet, LLC. Each recipient will receive \$130,000 in funding for a one-year grant. Please join us in celebrating this year's grant recipients:

Annabella Shewarega, MD
Yale University

Project: Optimized Locoregional Delivery of Immunotherapy in Liver Cancer Using Nanoparticle-Lipiodol Formulation Monitored by Molecular MRI.

Toshihiro Tanaka, MD, PhD
Nara Medical University

Project: Development of a Next-Generation Drug Delivery System Utilizing Lipiodol in Combination with Immune Checkpoint Inhibitors in Hepatocellular Carcinoma.

We are proud to support their pioneering work in interventional oncology and look forward to showcasing these innovative projects during the **SIO 2026 Annual Scientific Meeting**, during the Grant Showcase session.

6.1

The 2024 Most Downloaded Paper Award (JD) を授賞しました

皮膚科学 名誉教授 浅田 秀夫

この度、私の論文「Recent topics in the management of herpes zoster」(The Journal of Dermatology, Vol.50, Issue 3, pp.305-310, 2023) が、The Journal of Dermatology “Most Downloaded Paper in 2024” に選出されました。本論文では、小豆島における大規模な前向き疫学研究の成果を踏まえ、带状疱疹の近年の疫学的動向、診断・治療・予防に関する最新の知見を、総説としてまとめています。長年にわたり取り組んできた带状疱疹研究に、多くの方々が関心を寄せてくださったことを、大変嬉しく思っております。本研究にご協力くださった皆様、ならびに日頃よりご支援を賜っている皆様に、心より御礼申し上げます。



Winner Report

6.2

第14回奈良県立医科大学女性研究者 学術研究奨励賞の授賞式を開催しました

女性研究者学術研究奨励賞は、優れた研究成果を挙げた本学の女性研究者を顕彰し、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成と男女共同参画の促進等に資することを目的に、平成23年度に創設されました。

第14回の受賞者は小児科学・臨床研修センターの大西智子助教で、授賞式にて賞状、記念品の盾及び研究奨励金を授与しました。授賞式後、大西智子先生による「包括的凝固 / 線溶動態に基づく敗血症性DIC（播種性血管内凝固）の病態解明」と題した講演を行いました。



前列：左より野上教授、細井学長、大西助教
後列：左より赤井臨床研修センター長、吉川病院長、嶋医学部長

6.13

第31回日本血管内治療学会総会 優秀演題賞を受賞しました

放射線診断・IVR学 医員 大島 圭裕

第31回日本血管内治療学会総会に於いて、「バルーン閉塞試験による側副血行路評価に基づく脾動脈瘤コイル塞栓術の有効性」の研究が血管内治療および学会の発展に寄与するものとして評価され「優秀演題賞」を受賞することができました。この場をお借りしてご指導いただいた田中利洋教授はじめ、放射線診断・IVR学講座の先生方に感謝申し上げます。



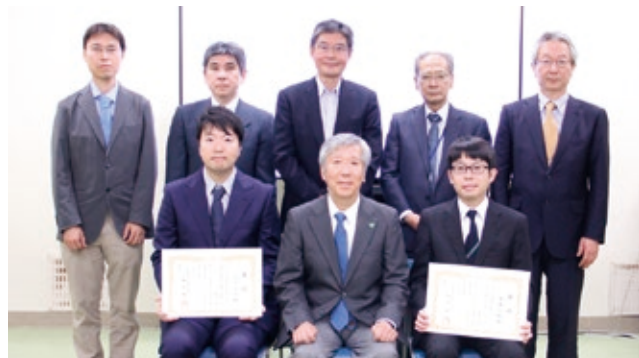
6.2

第32回中島佐一学術研究奨励賞の 授賞式を開催しました

今回の受賞者は眼科学の辻中大学生講師、泌尿器科学の後藤大輔講師の2名で、受賞者にはそれぞれ賞状、記念品の盾及び研究奨励金が授与されました。

表彰式後、辻中講師が「加齢黄斑変性発症のメカニズム解明とその治療法開発」、後藤講師が「加齢や糖尿病、脊髄損傷に伴う下部尿路機能障害と nitric oxide (NO) /cyclic guanosine monophosphate (cGMP) 系について」と題して講演を行いました。

この賞は、故中島佐一名誉教授のご遺族からの寄附金を財源として、医学の学術研究に優れた業績をあげた本学の若手教員に授与し、さらなる研究の発展を奨励することを目的としています。毎年、各所属に応募要項を案内していますので、若手教員の積極的な応募をお待ちしています。



前列：左より辻中講師、細井学長、後藤講師
後列：左より加瀬教授、上田准教授、嶋医学部長、吉川病院長、藤本教授

6.20

PCN Reports Reviewer Awards 2024を受賞しました

健康管理センター センター長（精神医学兼任） 山室 和彦

このたび、「PCN Reports Reviewer Awards 2024」を受賞することができ、大変光栄に思っております。国際誌 Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports における査読活動が評価されたことは、私にとって大きな励みとなりました。精神医学・神経科学の発展に少しでも貢献できるよう、これまで誠実かつ建設的な査読を心がけて取り組んでまいりました。今回の受賞は、そうした日々の取り組みが評価されたものと受け止めております。今後も、査読者としての責務を果たすとともに、自身の研究活動においても質の高い成果を目指し、学術の発展に寄与してまいりたいと考えております。これまでご指導くださった先生方や、支えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。



6.21

国際血栓止血学会 Esteemed Career Awards を受賞して

医学部長・血栓止血研究センター長 嶋 緑倫

6月21日より米国 Washington DC で開催された国際血栓止血学会 (ISTH: International Society on Thrombosis and Hemostasis) において「Esteemed Career Awards」を受賞いたしました。ISTH は、血栓・止血領域における世界最大の学術組織であり、毎年の学術集会には、世界 100 か国以上から 5,000 以上の臨床医や研究者などの専門家が参加しています。「Esteemed Career Award」は、会員による推薦のもとに、血栓止血学の理解、診断と治療、研究と教育において顕著な貢献を果たした個人に授与されるものです。この度の受賞を大変光栄に感じております。これまでの奈良医大小児科の血栓止血学に関する伝統と研究実績があったからこそこの受賞であり、故福井弘教授や吉岡章前学長をはじめ、歴代の小児科の諸先生方、そして共に研究を行ってきた野上恵嗣教授をはじめ教室の先生方に深く感謝申し上げます。



6.27

第47回血栓止血学会において学術奨励賞を受賞しました

血栓止血分子病態学 講師 下西 成人

この度、2023年に掲載された「Impaired factor V-related anticoagulant mechanisms and deep vein thrombosis associated with A2086D and W1920R mutations. Blood advances 2023」に対して、第47回血栓止血学会におきまして、学術奨励賞を賜りました。本研究は、若年性の血栓症を発症した凝固第V因子 (Factor V:FV) の異常に関するものです。FVはAPCによって不活化されますが、その不活化に対する抵抗性を示すFVであり、その抵抗性の機序について深く追求いたしました。さらに、FVの新たな抗凝固機能を示唆する結果も得ることができました。凝固因子であるFVの異常が、血栓症を呈する機序にせまることができ、非常に興味深いものでした。受賞に際しまして、ご指導いただきました嶋緑倫医学部長、野上恵嗣教授、荻原建一准教授を筆頭に小児科学教室の皆様にお礼申し上げます。さらに、FVの発現に多大なるお力添えを賜りました第二生理学教室の堀江恭二教授、吉田純子助教に厚くお礼申し上げます。

写真は、会場で表彰されたときのものです。本学の血液内科学教授で学会長でもある松本雅則先生により授与いただきました。



6.29

第48回日本基礎老化学会大会において学会奨励賞を受賞しました

生化学 講師 堀川 誠

この度、第48回日本基礎老化学会大会において学会奨励賞を受賞しました。受賞演題は線虫の冬眠様休眠現象を利用した新規寿命制御遺伝子スクリーニング手法の開発です。抗老化研究のモデル生物である線虫 (C.elegans) を用いて、新しく発見した冬眠様の発生休眠現象『低温休眠』を利用する事により、寿命制御遺伝子を単離・同定する遺伝学的スクリーニング手法の開発に成功しました。本研究を推進するにあたり、様々なフィードバックをいただいた中村修平教授、共同研究者の水沼正樹教授 (広島大学)、ならびに生化学講座の皆様にご感謝申し上げます。



Winner Report

7.3
7.22

横断的共同研究助成事業及び若手研究者研究助成事業が採択されました

本学の研究の一層の推進を目指して行われている横断的共同研究助成事業・若手研究者研究助成事業について、今年度は下記の研究課題が採択されました。

本学の将来像に定めた横断的・共同研究を推進するための横断的共同研究助成事業には、5件の応募があり、整形外科学 塚本真治先生が研究代表者である共同研究が採択され、500万円/年が助成されます。

また、若手研究者研究助成事業には25件の応募があり、下記の12名が採択され、総額500万円が助成されます。

■ 横断的共同研究助成事業 採択者

所属名	職	氏名	研究課題名	共同研究者
整形外科学	助教	塚本 真治	中間悪性度骨腫瘍に対する免疫チェックポイント分子発現を基盤とした新規治療戦略	①病理診断学 大学院 新田 勇二 ②IRCCS Istituto Ortopedico Rizzoli Department of Pathology Alberto Righi ③IRCCS Istituto Ortopedico Rizzoli Department of Orthopaedic Oncology Costantino Errani ④骨軟部腫瘍制御機能再建医学 教授 朴木 寛弥 ⑤整形外科学 大学院 増永 智哉 ⑥病理診断学 教授 吉澤 明彦 ⑦がんゲノム・腫瘍内科学 教授 武田 真幸 ⑧リハビリテーション医学 教授 城戸 顕 ⑨国立保健医療科学院 医療・福祉サービス研究部 部長 赤羽 学

■ 若手研究者研究助成事業 採択者

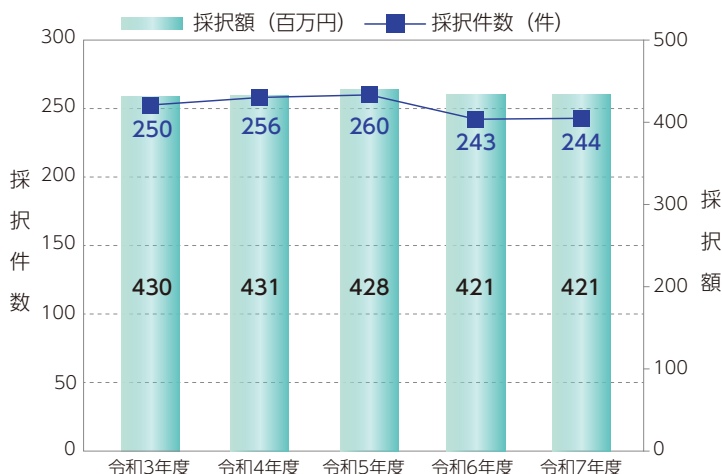
所属名	職	氏名	研究課題名
血栓止血先端医学 (教育開発センター付)	研究助教	細田 千裕	MEK 阻害剤 PD0325901 作用時の血管内皮細胞における CD34 発現上昇機構の解明
オートファジー・抗老化 研究センター	教室職員	大角 泰一	リソソーム膜損傷による細胞老化および個体老化誘導メカニズムの解析
泌尿器科学	助教	小田 侑希	Mincle-PD-L1 陽性マクロファージによる BCG 抵抗性膀胱癌発生機序の解明
脳神経外科学	診療助教	中瀬 健太	領域別発光刺激電極による新規術中視覚誘発電位モニタリングの開発
消化器・総合外科学	病院助教	巽 孝成	オミクス解析による AFP 産生胃癌の癌微小環境解明と新規治療標的の同定
精神医学	助教	水井 亮	感覚処理と自律神経機能の特異性からみた自閉スペクトラム症児の不応行動の実態モデル構築
産婦人科学	医員	上林 潤也	ミトコンドリアと抗酸化物質に着目した化学療法抵抗性卵巣明細胞癌の新規治療法の確立
脳神経内科学	病院助教	福島 功士	筋萎縮性側索硬化症における神経超音波検査による頸部神経根、腕神経叢の断面積の評価と神経炎症への関与の検討
総合画像診断センター	助教	田井 由美	PADRE を用いた脳アミロイド血管症の画像的評価
産婦人科学	医員	松岡 基樹	Stem cell factor 誘導性原始卵胞活性化機構の解明と抗アンドロゲン薬による制御
眼科学	医員	西山 武孝	網膜色素上皮のメラニン異常と脈絡膜血流異常との相関関係を明らかにする
法医学	助教	井上 伸	ヤマカガシ毒中に含まれる凝固活性化タンパクの分離・同定

令和7年度 文部科学省科学研究費助成事業の決定

令和7年度 科学研究費助成事業(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金(文部科学省、独立行政法人日本学術振興会))が決定しました。令和7年5月1日現在の状況は下記のとおりです。

来年度においても積極的な応募申請をよろしくお願いいたします。

	採択件数 (件)	採択額 (千円)	直接経費	間接経費
令和7年度	244	420,990	324,060	96,930
令和6年度	243	421,460	324,200	97,260
令和5年度	260	428,470	332,800	95,670
令和4年度	256	431,160	332,100	99,060
令和3年度	250	429,840	330,900	98,940



令和7年度 文部科学省科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）一覧

研究種目	教室名 (R7.5.1)	職名 (R7.5.1)	氏名	研究課題名	開始年度	終了年度
学術変革領域研究 (A)	生化学	教授	中村 修平	リソソーム構成タンパク質のターンオーバーを担う分子機構と老化における役割の解明	2024	2025
学術変革領域研究 (A)	役員	理事 (教育・研究担当)	嶋 緑倫	止血異常症・血栓症に対する精密高分子を用いた治療方法の創出	2025	2028
基盤研究 (A)	公衆衛生学	教授	今村 知明	医療・介護・健診連結データを用いた意思決定に資するリアルワールドエビデンスの構築	2023	2027
基盤研究 (B)	公衆衛生学	助教	西岡 祐一	医療・介護・健診連結ビッグデータを用いた内分泌代謝疾患のリアルワールド解析	2022	2026
基盤研究 (B)	産婦人科学	教授	木村 文則	子宮内細菌叢形成の探求とそれに基づいたプレコンセプションケアの開発	2023	2025
基盤研究 (B)	在宅看護学	教授	小竹 久美子	喉頭全摘出者の退院後の QOL 向上を目指す継続看護チームの介入：RCT による縦断調査	2023	2027
基盤研究 (B)	第二生理学	教授	堀江 恭二	自律的な初期胚形成が可能な全能性状態の誘導	2024	2027
基盤研究 (B)	生化学	教授	中村 修平	生殖と寿命のバランス制御の中核を担う組織間情報伝達カスケードの解明	2024	2026
基盤研究 (B)	放射線診断・I V R 学	教授	田中 利洋	肝癌カテーテル治療における新規 DDS の臨床実用化に向けた開発と動注免疫療法への応用	2024	2028
基盤研究 (B)	第二生理学	講師	坂野 公彦	オンチップ血管モデルを基盤とした Sturge-Weber 症候群の分子病態解明と新規治療法開発	2024	2026
基盤研究 (B)	免疫学	講師	北畠 正大	肺線維症における病源性線維芽細胞の持続活性化制御による新規治療戦略の確立	2024	2027
基盤研究 (B)	皮膚科学	准教授	新熊 悟	X 染色体不活性化機構を応用したモザイクマウスを用いた細胞増殖優位性獲得機序の解明	2024	2026
基盤研究 (B)	微生物感染症学	助教	鈴木 由希	医療環境と病院排水における薬剤耐性菌の実態把握と耐性遺伝子伝播要因の解明	2024	2027
基盤研究 (B)	薬理学	教授	吉栖 正典	伸展負荷による血管平滑筋細胞死でのオートファジーの役割解明と動脈解離予防薬の開発	2025	2027
基盤研究 (B)	免疫学	教授	伊藤 利洋	組織空間的プロファイリング技術による肺線維症の病態解明と新規病理診断法の創出	2025	2028
基盤研究 (C)	整形外科科学	医員	宮本 拓馬	足部・足関節周囲の筋腱モーメントアームが 3 次元動態に及ぼす影響の検討	2021	2025
基盤研究 (C)	第一解剖学	講師	堀井 謙子	未知なものに対する不安・葛藤と行動を調節する神経回路の解明	2022	2025
基盤研究 (C)	生物学	講師	小林 千余子	淡水棲マミズクラゲがもつ 3 つの謎（性決定、芽体形成、生物伝播）の解明に迫る	2022	2025
基盤研究 (C)	脳神経内科学	准教授	形岡 博史	コロナ禍とパーキンソン病患者：うつ症状の経年変化、睡眠・身体活動測定値の前後比較	2022	2025
基盤研究 (C)	脳卒中センター	病院教授	斎藤 こずえ	超高速超音波イメージングを用いた血流解析による頸動脈プラーク不安定性評価	2022	2025
基盤研究 (C)	中央手術部	医員	大井 彩子	子宮癌手術中における電極付き尿道カテーテルを用いた排尿機能モニタリングの有用性	2022	2025
基盤研究 (C)	口腔外科学	助教	仲川 洋介	PIKK ファミリー関連 DNA 修復機構を標的とする新規口腔がん治療戦略	2022	2025
基盤研究 (C)	在宅看護学	講師	栗田 麻美	がん終末期在宅療養者における訪問看護師の臨床判断学習支援プログラムの開発	2022	2025
基盤研究 (C)	数理 A 医学	講師	川口 良	トリーク多様体の偏極構造と凸多面体の関係の研究	2023	2026
基盤研究 (C)	第一生理学	助教	上田 壮志	大脳皮質オフライン情報処理に潜む機能構造	2023	2025
基盤研究 (C)	医学研究支援センター	講師	米田 明弘	転移癌における抗癌剤抵抗性能獲得機序の解明とその応用	2023	2025
基盤研究 (C)	精神医学	准教授	山内 崇平	自閉スペクトラム症におけるマクロファージの食食能に着目した病態解明	2023	2025
基盤研究 (C)	精神医学	博士研究員	芳野 浩樹	社会的経験により発達する前頭前野-小脳回路の解明 中脳水道周囲灰白質を中心に	2023	2025
基盤研究 (C)	緩和ケアセンター	准教授	西尾福 英之	がんの低酸素環境下におけるナノテクノロジーを用いた新規 IVR 治療の開発	2023	2025
基盤研究 (C)	総合画像診断センター	講師	宮坂 俊輝	イメージング質量分析と MRI による Glymphatic system の比較解析	2023	2025
基盤研究 (C)	総合画像診断センター	助教	茶之木 悠登	肝細胞癌に対する新規 DDS を用いたレンパチニブ肝動注療法の開発	2023	2025
基盤研究 (C)	がんゲノム・腫瘍内科学	博士研究員	早川 正樹	肺血栓塞栓症における血管閉塞を血液マーカーで診断する方法の開発	2023	2025
基盤研究 (C)	呼吸器内科学	教授	室 繁郎	マウス肺気腫モデルにおける肺胞再生の定量的形態測定とヒト肺気腫画像との相同性	2023	2025
基盤研究 (C)	微生物感染症学	准教授	王寺 幸輝	トレース機能を有する人工培養毛 iHair を用いた Wnt シグナルによる発毛制御	2023	2025
基盤研究 (C)	皮膚科学	講師	宮川 史	単球による Type2 炎症反応の抑制機構の解明と臨床応用	2023	2025
基盤研究 (C)	輸血部	医員	坂田 飛鳥	血管透過性亢進病態における血管外凝固第 IX 因子の役割解明	2023	2026
基盤研究 (C)	血液内科学	博士研究員	堀内 久徳	高ずり応力が招く止血異常に関する研究	2023	2026
基盤研究 (C)	感染症内科学	医員	関根 隆博	大規模な大腸菌ゲノム解析による病源性・耐性遺伝子の共存関係および表現形質の特定	2023	2025
基盤研究 (C)	ラジオアイソトープ実験施設	博士研究員	秦野 修	塩誘導キナーゼ結合イントラクトームを介するステロイドホルモン産生組織の機能解析	2023	2025
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	医員	黒田 靖浩	T 細胞不活化分子 CD200 を標的とした神経芽腫に対する新規治療法の開発	2023	2025
基盤研究 (C)	胸部・心臓血管外科学	病院教授	濱路 政嗣	大動物モデルによる胸腺上皮性腫瘍のセンチネルリンパ節同定の探索的実験	2023	2025
基盤研究 (C)	集中治療部	病院教授	恵川 淳二	プレハビリテーションによる虚血後運動障害予防効果とカベオリン 1 発現に関する研究	2023	2025
基盤研究 (C)	麻酔科学	助教	小川 裕貴	小児脊椎手術での電極付き尿道カテーテルを使用した術中排尿機能モニタリングの開発	2023	2026
基盤研究 (C)	中央手術部	助教	植村 景子	排尿機能評価として尿道括約筋から記録する球海綿体反射モニタリングの開発	2023	2026
基盤研究 (C)	総合医科学	医員	西尾 健治	腸管虚血再灌流による腸管傷害・肝傷害の発生・進展に対する ADAMTS13 の影響	2023	2025
基盤研究 (C)	在宅医療支援センター	特任助教	西村 信城	急性呼吸窮迫症候群の病態への ADAMTS13 への影響	2023	2026
基盤研究 (C)	薬理学	准教授	中平 毅一	超らせん構造型ミトコンドリア DNA の敗血症における機能的役割の解明	2023	2025
基盤研究 (C)	脳神経外科学	博士研究員	前岡 良輔	糖化 PEG 修飾型免疫チェックポイント抗体と NK 細胞を用いた集学的免疫細胞治療の開発	2023	2025
基盤研究 (C)	脳神経外科学	講師	松田 良介	悪性髄膜腫に対する末梢血および臍帯血由来 NK 細胞を用いた免疫細胞療法の開発	2023	2025
基盤研究 (C)	脳神経外科学	准教授	西村 文彦	臍帯血由来 CAR-NK 細胞による膠芽腫治療法の開発	2023	2025
基盤研究 (C)	寄附講座手の外科講座	教授	面川 庄平	再生神経インターフェイスによる有痛性断端神経腫の新規治療法の開発	2023	2025
基盤研究 (C)	泌尿器科学	准教授	三宅 牧人	膀胱癌 BCG 療法の至適化を目指した腸内微生物メタボロゲノミクス解析	2023	2025
基盤研究 (C)	泌尿器科学	博士研究員	島本 一匡	間質性膀胱炎に関する腸内細菌叢での脂質代謝および血液バイオマーカーの開発	2023	2025
基盤研究 (C)	産婦人科学	博士研究員	重富 洋志	新たな経腔光学プローブによる子宮内膜症関連不妊症の非侵襲的予知	2023	2025
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	木村 麻衣	Dydrogesterone 経口投与の胎児発育不全に及ぼす影響の研究	2023	2025
基盤研究 (C)	産婦人科学	医員	脇 啓太	ヒドロキシクロロキンの習慣流産と妊娠高血圧症候群発症への影響に関する検討	2023	2025
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教授	北原 紘	耳鳴動物モデルの普遍化と治療法開発	2023	2025
基盤研究 (C)	めまい・難聴センター	病院教授	西村 忠己	軟骨伝導聴力および軟骨伝導補聴器の評価法に関する検討	2023	2025
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	医員	今井 貴夫	メニエール病のめまい発作の機序の解明	2023	2025
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	講師	山下 哲範	動物実験モデルを用いた耳鳴治療の再検証と新規治療法の開発	2023	2025
基盤研究 (C)	口腔外科学	博士研究員	村上 和宏	埋入トルク値の違いによるインプラント体周囲骨組織に与える影響と最適トルク値の解明	2023	2025
基盤研究 (C)	微生物感染症学	講師	中野 章代	動物と密に接する環境が薬剤耐性菌受と腸内細菌叢に与える影響	2023	2025
基盤研究 (C)	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾	入浴事故予防にむけた疫学研究	2023	2025

Winner Report

研究種目	教室名 (R7.5.1)	職名 (R7.5.1)	氏名	研究課題名	開始 年度	終了 年度
基盤研究 (C)	成人慢性期看護学	講師	石橋 千夏	医療施設のクローン病癌化サーベイランスの認識とクローン病患者のセルフモニタリング	2023	2025
基盤研究 (C)	公衆衛生看護学	教授	坂東 春美	孤立出産のリスク要因とポジティブデビアンズによる強化的要素の解明と支援策の構築	2023	2025
基盤研究 (C)	分子病理学	博士研究員	大森 斉	がん性悪液質の増悪因子である舌萎縮の機序解明と抑制法の検討	2023	2025
基盤研究 (C)	リハビリテーション医学	教授	城戸 顕	身体活動による快情動（心地よさ）を基盤とした新しいがんリハビリテーションの開発	2023	2025
基盤研究 (C)	脳神経内科学	医員	眞野 智生	深層筋解析を基盤とした脳血管障害後に対する歩行機能の再建研究	2023	2025
基盤研究 (C)	医学研究支援センター	特任教授	杉浦 重樹	DNA 損傷特異的人工エンドヌクレアーゼによる修復亢進の分子機構	2023	2025
基盤研究 (C)	臨床研究センター	助教	五十川 雅裕	CKD 病態マーカーとしてのキララミノ酸プロファイリングの有用性の検討	2023	2025
基盤研究 (C)	寄附講座スポーツ医学講座	教授 (寄附講座)	小川 宏宏	舞台芸術家の筋骨格系障害の網羅的疫学研究および予防介入の基盤構築に向けた実装研究	2024	2027
基盤研究 (C)	教育開発センター	講師	城戸 楓	生成 AI を用いた SOAP に焦点化した電子カルテ用学習シミュレータの開発	2024	2028
基盤研究 (C)	母性看護学	准教授	木村 奈緒美	産後うつ予防と母親役割を向上するための IT を活用したプログラムの構築	2024	2026
基盤研究 (C)	第一生理学	教授	齋藤 康彦	カルシウム透過型 AMPA 受容体の活性化に基づく注視のメカニズム	2024	2026
基盤研究 (C)	未来基礎医学	助教	五十棲 規嘉	神経変性疾患の治療法開発に向けた亜鉛フィンガードメインの新たな機能の解明	2024	2027
基盤研究 (C)	病理診断学	教授	吉澤 明彦	胸膜肺実質線維性症の線維化を正確に捉える空間的深層学習モデルの構築	2024	2026
基盤研究 (C)	オートファジー・抗老化研究センター	講師	井本 ひとみ (山本ひとみ)	加齢依存的オートファジー活性低下による肝発がん機構の解明	2024	2026
基盤研究 (C)	免疫学	助教	王寺 典子 (下嶋典子)	新規免疫チェックポイント分子 HLA-F を標的とした免疫療法実用化に向けた基礎研究	2024	2026
基盤研究 (C)	健康管理センター	講師	山室 和彦	幼若期虐待モデルマウスにおけるストレス応答の変容とそのメカニズムの解明	2024	2026
基盤研究 (C)	中央放射線部	助教	佐藤 健司	運動器慢性疼痛に対するカテーテル治療における新規血管塞栓粒子の開発	2024	2026
基盤研究 (C)	放射線腫瘍医学	教授	磯橋 文明	機能情報を取り入れた放射線治療計画評価法の確立	2024	2026
基盤研究 (C)	放射線診断・IVR 学	准教授	市橋 成夫	包括的高度慢性下肢虚血患者に対する経皮的深部静脈動脈化術の確立	2024	2026
基盤研究 (C)	放射線診断・IVR 学	助教	南口 貴世介	造影 CT の細胞外容積分画を用いた肝細胞癌の Stem-like CD8 陽性 T 細胞浸潤の予測法構築	2024	2026
基盤研究 (C)	放射線診断・IVR 学	医員	山田 彩	PF-ILD のフラクタル解析と CNN 学習モデルを用いた画像診断研究	2024	2027
基盤研究 (C)	小児科学	教授	野上 恵嗣	血液凝固第Ⅷ因子制御に基づく血友病 A と血栓性疾患への新規治療薬開発の基礎研究	2024	2026
基盤研究 (C)	小児科学	博士研究員	矢田 弘史	生体内病態環境下における血友病 A の病態解析と凝血学特性に基づく新規治療戦略の開発	2024	2026
基盤研究 (C)	小児科学	特任助教	小田 朗永	脾臓内・外の抗 FVIII 応答制御による血友病 A インヒビター産生消失への挑戦	2024	2026
基盤研究 (C)	肝疾患相談センター	特任准教授	浪崎 正	運動療法と ADAMTS13 補充療法の併用による新たな肝硬変サルコペニアの治療戦略	2024	2026
基盤研究 (C)	消化器内科学	教授	吉治 仁志	Enhanced Drug Repositioning を用いた肝硬変合併症に対する同時制御治療法の開発	2024	2026
基盤研究 (C)	循環器内科学	教授	彦惣 俊吾	SGLT2 を起点とした左室駆出率の保たれた心不全の病態解明と新規治療標的の検討	2024	2026
基盤研究 (C)	循環器内科学	助教	中田 康紀	NADPH オキシゲナーゼを介した活性酸素による HFpEF の病態進展機序の解明	2024	2026
基盤研究 (C)	循環器内科学	准教授	尾上 健児	炎症性心筋疾患における心臓局所炎症細胞の機能解明	2024	2026
基盤研究 (C)	栄養管理部	病院教授	藤田 聖太	COPD のフレイル対策のための食事習慣と栄養摂取の役割－健康寿命延伸への取り組み－	2024	2026
基盤研究 (C)	皮膚科学	医員	浅田 秀夫	DIHS における NK 細胞に着目した HHV-6 感染細胞の排除機構の解明	2024	2026
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	助教	洲尾 昌伍	神経芽腫における免疫チェックポイント阻害剤耐性メカニズム解明と新規免疫治療の開発	2024	2026
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	医員	小原 有一朗	GFAT を標的とした高血糖起因性の肺癌化学療法抵抗性に対する新規治療戦略の開発	2024	2026
基盤研究 (C)	中央内視鏡部	病院教授	小山 文一	大腸陰窩の細胞動態における神経の果たす役割の解明	2024	2026
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	医員	阪田 武	肝細胞癌の新規治療法構築を目的とした悪性度予測 microRNA リキッドバイオプシーの開発	2024	2026
基盤研究 (C)	集中治療部	助教	松浦 秀記	小児に対応した運動誘発電位モニタリングのための麻酔方法の開発	2024	2027
基盤研究 (C)	麻酔科学	学内講師	園部 爽太	ヒストンメチル化酵素 SETDB2 が関与する血管内皮細胞の細胞死メカニズム	2024	2027
基盤研究 (C)	救急医学	助教	鶴田 啓亮	人工赤血球 (Hemoglobin Vesicle) による心肺停止後の脳蘇生	2024	2026
基盤研究 (C)	玉井進記念四肢外傷センター	准教授	河村 健二	間葉系幹細胞移植を用いた標的化筋肉再神経支配法の開発と神経腫治療への応用	2024	2026
基盤研究 (C)	整形外科	准教授	谷口 晃	AI を利用した人工距骨の生体内動態解析	2024	2026
基盤研究 (C)	産婦人科学	医員	山本 皇之祐	ヒドロキシクロロキンをを用いた子宮内膜症の新規治療開発	2024	2026
基盤研究 (C)	産婦人科学	博士研究員	小林 浩	子宮内膜症のエネルギー代謝特性に焦点を当てた非ホルモン治療の開発	2024	2026
基盤研究 (C)	産婦人科学	准教授	川口 龍二	低分子量ヘパリンを術後早期から用いた肺血栓症に対する新規予防法の確立	2024	2026
基盤研究 (C)	糖尿病・内分泌内科学	助教	紙谷 史夏	免疫チェックポイント阻害薬による内分泌免疫関連有害事象のビッグデータ解析	2024	2026
基盤研究 (C)	理論基礎看護学	教授	松田 明子	RA 患者の最適な治療選択に向けた意思決定を支援する看護倫理教育プログラムの構築	2024	2026
基盤研究 (C)	実践基礎看護学	助教	白田 梨奈	がん患者の治療に伴う有害事象出現が職種別就労継続に及ぼす影響	2024	2027
基盤研究 (C)	微生物感染症学	特任講師	堀内 沙央里	海外渡航者が保菌する薬剤耐性菌の実態解明と感染コントロールを目指した包括的研究	2024	2026
基盤研究 (C)	分子病理学	博士研究員	羅 奕	がん性心筋障害に対する食事介入の検討	2024	2026
基盤研究 (C)	分子病理学	博士研究員	藤井 澄	慢性腎臓病におけるサルコペニアに対する栄養介入の検討	2024	2026
基盤研究 (C)	化学	講師	松平 崇	治癒を加速させる創傷被覆材としての超分子ヘモグロビンハイドロゲルの開発	2024	2027
基盤研究 (C)	臨床病態医学	教授	山内 基雄	新たな換気応答検査と睡眠検査を活用し神経筋疾患に対する呼吸管理の精度向上を目指す	2024	2026
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	特任講師	和田 佳郎	浮動性めまいの病態を評価する VR を用いた三次元的重力感受性検査法の確立	2024	2026
基盤研究 (C)	麻酔科学	助教	川西 秀明	術後期の患者の安全性向上を目指した、口腔ケアを目的とした電子鼻 (e-Nose) の開発	2024	2026
基盤研究 (C)	循環器内科学	医員	岡村 昭彦	動脈硬化性プラーク由来エクソソームを標的とした動脈硬化に対する新規治療法の開発	2025	2027
基盤研究 (C)	第二解剖学	准教授	辰巳 晃子	Olig2 系譜アストロサイトが担う抑制性神経回路の発達機構	2025	2027
基盤研究 (C)	第二解剖学	教授	服部 剛志	CD38 欠損による神経興奮毒性軽減メカニズムの解明と病態への応用	2025	2027
基盤研究 (C)	第一生理学	助教	杉村 岳俊	舌下神経前位核の新規亜集団における神経回路と機能の解明	2025	2027
基盤研究 (C)	薬理学	助教	趙 昂	血管平滑筋細胞死でのオートファジー機構に注目した動脈解離に対する分子創薬	2025	2027
基盤研究 (C)	生化学	助教	牧野 舞	STK38 による損傷リソソーム修復の分子機構および神経変性疾患における役割の解明	2025	2027
基盤研究 (C)	第一生理学	准教授	眞部 寛之	匂いが多様な情動を惹起する神経回路機構の解明	2025	2027
基盤研究 (C)	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	オートファジー関連筋疾患におけるリソソーム機能不全の分子基盤の解明	2025	2027
基盤研究 (C)	脳神経内科学	医員	塩田 智	神経筋疾患におけるオートファジー機構破綻の機序解明	2025	2027
基盤研究 (C)	脳神経内科学	学内講師	江浦 信之	封入体筋炎の病態解明に向けた腸内細菌・腸管免疫の研究	2025	2027
基盤研究 (C)	脳神経内科学	助教	七浦 仁紀	遺伝性神経疾患における変性過程のダイナミクス理解とその制御	2025	2027

研究種目	教室名 (R7.5.1)	職名 (R7.5.1)	氏名	研究課題名	開始 年度	終了 年度
基盤研究 (C)	精神医学	教授	岡田 俊	成人期まで持続する注意欠如多動症の脳構造・神経心理・臨床症状に基づく病態モデル構築	2025	2027
基盤研究 (C)	精神医学	助教	池原 実伸	ASD モデルにおけるメトフォルミンの行動・前頭前野および免疫関連細胞への影響	2025	2027
基盤研究 (C)	総合画像診断センター	助教	越智 朋子	腫瘍選択性を有し、腎毒性を軽減したリボソーム造影剤の新規開発	2025	2027
基盤研究 (C)	放射線診断・IVR学	医員	入里 真理子	TACE が引き起こす肝細胞癌の免疫微小環境変化：免疫療法とのシナジー効果の解明	2025	2027
基盤研究 (C)	放射線診断・IVR学	助教	松本 武士	がん免疫逃避機構阻害と肝動脈塞栓術併用での免疫微小環境変化の解明と新規治療の開発	2025	2027
基盤研究 (C)	臨床研修センター	助教	大西 智子	血友病の年齢による凝血学的変化の解明と、「止血」と「抗血栓」併用の治療戦略の検討	2025	2027
基盤研究 (C)	消化器内科学	医員	高谷 広章	血液凝固制御因子 ADAMTS13 による肝癌再発予防法とバイオマーカーの開発	2025	2027
基盤研究 (C)	消化器内科学	講師	西村 典久	加齢による MASH 肝線維化進展における CHI3L1 の役割解析	2025	2027
基盤研究 (C)	循環器内科学	助教	中川 仁	左室駆出率の保たれた心不全の心臓ミネラルコルチコイド受容体への SGLT2 の作用の検討	2025	2027
基盤研究 (C)	循環器内科学	医員	浅井 祐志	健診での心房細動保有者の受診行動と医療機関受診へ繋げる体制の構築に関する研究	2025	2027
基盤研究 (C)	血栓止血先端医学講座	准教授	辰巳 公平	炎症性肺疾患における VWF およびその関連因子の関与の解明および治療応用	2025	2027
基盤研究 (C)	微生物感染症学	助教	北村 知高	ハイブリッド型複合マテリアルを用いた新規肺オルガノイドの誘導と機能解析	2025	2027
基盤研究 (C)	呼吸器内科学	准教授	本津 茂人	特発性肺線維症合併肺癌における腫瘍と線維化を同時制御する新たな治療戦略の開発	2025	2028
基盤研究 (C)	腎臓内科学	講師	江里口 雅裕	唾液腺-骨連関モデルを用いた、腎疾患におけるリン代謝の解明	2025	2027
基盤研究 (C)	脳神経内科学	講師	桐山 敬生	中枢性神経免疫疾患の免疫機構と遺伝的素因を合わせた病勢バイオマーカー確立	2025	2028
基盤研究 (C)	脳神経内科学	助教	小林 正樹	核内相分離構造体に着目した糖尿病性末梢神経障害の病態解明と治療法開発	2025	2027
基盤研究 (C)	脳神経内科学	医員	清水 宏紀	有痛性糖尿病性末梢神経障害の病態における皮膚マクロファージ SNX25 の役割の解明	2025	2027
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	助教	國重 智裕	ユビキチン修飾系・サルコペニアを標的とした新規消化器癌治療法の開発	2025	2027
基盤研究 (C)	救急医学	講師	川井 廉之	敗血症の原因菌の情報を 1 時間以内に臨床現場に提供する迅速検査法の確立	2025	2027
基盤研究 (C)	脳神経外科学	教授	中川 一郎	虚血耐性機序を介した新規糖尿病治療薬のミトコンドリア膜電位制御の解明	2025	2027
基盤研究 (C)	寄附講座骨軟部腫瘍制御・機能再建医学講座	教授 (寄附講座)	朴木 寛弥	ゲノム不安定性関連因子を標的とした小児・AYA 世代肉腫患者の予後解析と新規治療開発	2025	2027
基盤研究 (C)	整形外科	医員	田中 康仁	足荷重 CT の 3 次元画像に対する構造解析法の確立と AI を用いた評価の全自動化	2025	2028
基盤研究 (C)	泌尿器科学	医員	西村 伸隆	クロノセラピーの膀胱癌光線力学的治療への応用	2025	2027
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	前花 知果	卵巣癌患者に対する liquid biopsy としての新規濾過膜の有用性の検証	2025	2027
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	山田 有紀	子宮内膜症による原始卵胞活性化メカニズムの解明と卵巣機能温存療法の新規開発	2025	2027
基盤研究 (C)	産婦人科学	医員	坂田 優太	ミトコンドリアと抗酸化物質に着目した化学療法抵抗性卵巣明細胞癌の新規治療法の確立	2025	2027
基盤研究 (C)	高度生殖医療センター	助教	岸田 和美	男性不妊の治療法の開発を目的とした精子 Autophagy の解明	2025	2027
基盤研究 (C)	産婦人科学	講師	前川 亮	人工知能を用いた腔内細菌叢による周産期合併症発症予測	2025	2027
基盤研究 (C)	形成外科	病院教授	桑原 理充	コラーゲン繊維の向きを考慮した科学的皮膚移植術の開発	2025	2027
基盤研究 (C)	口腔外科学	講師	柳生 貴裕	既存薬リグロスを活用した MRONJ 予防法の確立と臨床応用	2025	2027
基盤研究 (C)	口腔外科学	博士研究員	栗原 都	高コレステロール状態における口腔癌細胞の動態とシグナル経路の解明	2025	2027
基盤研究 (C)	地域医療学講座	准教授	岡藤 俊治	県境地域における地域住民の受療行動および医療提供体制の実態調査	2025	2028
基盤研究 (C)	微生物感染症学	教授	矢野 寿一	病院排水を利用した医療施設内 MRSA モニタリングシステムの新規開発	2025	2027
基盤研究 (C)	疫学・予防医学	特任准教授	大林 賢史	光環境が睡眠・うつ症状・認知機能に及ぼす中長期影響：パーキンソン病コホート研究	2025	2028
基盤研究 (C)	精神看護学	教授	奥田 淳	看護師の心理的問題と要因の解明による医療観察法対象者の内省支援充実と再犯防止	2025	2028
基盤研究 (C)	成人急性期看護学	助教	堀井 えりな	在宅医療における糖尿病性足病変の予防プロトコルの構築	2025	2027
基盤研究 (C)	精神看護学	講師	橋本 顕子	統合失調症を有する男性の性的問題への支援	2025	2028
基盤研究 (C)	母性看護学	助教	山崎 愛	早産児の発達を促す支援プログラムの構築	2025	2027
基盤研究 (C)	母性看護学	教授	五十嵐 稔子	妊婦を対象とした出産恐怖感を軽減させる心理的教育プログラムの開発に向けた研究	2025	2027
基盤研究 (C)	老年看護学	助教	古角 美保子	生活指導は Vit D 不足を改善させるか：生活様式に応じた個別プログラムの開発	2025	2027
基盤研究 (C)	分子病理学	講師	谷 里奈	がん関連心筋障害における HfpeF のモデル確立と機序解明	2025	2027
基盤研究 (C)	分子病理学	博士研究員	川原 勲	ミトコンドリアを標的とする糖尿病性フレイルの改善	2025	2027
若手研究	放射線診断・IVR学	講師	岩越 真一	腹部大動脈瘤に対するステント内挿術後の MRI 画像における Radiomics 解析	2021	2025
若手研究	精神医学	博士研究員	高橋 誠人	自閉スペクトラム症における文化的自己観の神経基盤	2022	2025
若手研究	消化器内科学	医員	小川 裕之	Lenvatinib による門脈圧亢進抑制効果の検討	2022	2025
若手研究	地域医療学講座	特任助教	倉田 慎平	肩鎖関節脱臼における肩鎖、烏口鎖骨靭帯の生体力学的研究	2022	2025
若手研究	法医学	助教	勇井 克也	敗血症性ショックにおける 2-AG による末梢循環の新規分子機構の解明	2022	2025
若手研究	整形外科	助教	塚本 真治	中間悪性度骨腫瘍に対する免疫チェックポイント分子発現を基盤とした新規治療戦略	2023	2025
若手研究	小児科学	講師	石川 智朗	包括的血液凝固解析による小児特発性ネフローゼ症候群の血液凝固病態の解明	2023	2025
若手研究	循環器内科学	学内講師	妹尾 絢子	心臓 MRI を用いた心筋エントロピーの有用性：左室駆出率が保たれた心不全の予後予測	2023	2025
若手研究	がんゲノム・腫瘍内科学	学内講師	大田 正秀	癌幹細胞における免疫チェックポイント阻害剤耐性機構の解明	2023	2026
若手研究	呼吸器内科学	医員	藤岡 伸啓	脂肪由来間葉系幹細胞の多分化能を活用した COPD の新規治療戦略	2023	2025
若手研究	皮膚科学	助教	西村 友紀	HHV-6 持続感染に着目した DIHS の病態解明および自己免疫疾患発症機序の解明	2023	2025
若手研究	感染症内科学	准教授	今北 菜津子	病原体を考慮した敗血症性脳症のマウスモデルの確立と病態解明	2023	2026
若手研究	免疫学	助教	古川 龍太郎	呼吸器ウイルス感染症の発症および重症化における FOXO1 シグナル伝達経路の機能解明	2023	2025
若手研究	消化器・総合外科学	学内講師	横谷 倫世	トリプルネガティブ乳癌における CD70 発現の意義の解明と新規免疫療法の開発	2023	2025
若手研究	消化器・総合外科学	助教	中出 裕士	E3 ユビキチンリガーを介した胃癌進展機序の包括的解明と新規治療戦略の開発	2023	2025
若手研究	中央手術部	学内講師	位田 みつる	入院前のオレキシン受容体拮抗薬の投与が入院後の睡眠と術後回復に及ぼす影響	2023	2026
若手研究	寄附講座地域医療支援・教育学講座	講師	川崎 佐智子	頸椎症性脊髄症の痺れの可視化	2023	2027
若手研究	リウマチセンター	学内講師	原 良太	関節リウマチに対する滑膜組織を用いた分子標的薬選択の最適化に関する研究	2023	2025
若手研究	泌尿器科学	助教	堀 俊太	腎移植におけるタクロリムス代謝・吸収と腸内細菌叢の関連解析	2023	2025
若手研究	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	博士研究員	横田 尚弘	ラットを用いた骨導超音波知覚の解明と耳鳴に対する治療の基礎研究	2023	2025
若手研究	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	阪上 雅治	多能性幹細胞から前庭有毛細胞の特異的分化誘導と培養前庭による細胞移植再生の試み	2023	2025
若手研究	救急医学	講師	浅井 英樹	市民による AED 等の一次救命処置を早期に実施させるための口頭指導法の確立	2023	2025

Winner Report

研究種目	教室名 (R7.5.1)	職名 (R7.5.1)	氏名	研究課題名	開始年度	終了年度
若手研究	公衆衛生学	博士研究員	次橋 幸男	在宅医療における多職種協働によるケアの実態把握とアウトカム評価	2023	2026
若手研究	疫学・予防医学	講師	田井 義彬	住環境温湿度・皮膚温・脈拍変動の連続測定データを用いた高齢者熱中症予防法の開発	2023	2025
若手研究	糖尿病・内分泌内科学	助教	中島 拓紀	レセプトビッグデータを用いた機能性副腎腫瘍における骨粗鬆症、脆弱骨折の病態解明	2023	2025
若手研究	分子病理学	博士研究員	宮川 良博	がん性サルコペニアにおける中鎖脂肪酸食とケトン体食の骨格筋保護作用の比較	2023	2025
若手研究	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	学内講師	塩崎 智之	平衡障害の分類によるテララーメイド前庭リハビリテーションの開発	2023	2025
若手研究	中央手術部	学内講師	高谷 恒範	新規発光刺激電極による半視野刺激視覚誘発電位モニタリング装置の開発	2023	2025
若手研究	生化学	助教	志摩 喬之	細胞老化に伴うリソソームの変容及び破綻機構の解明	2024	2025
若手研究	発生・再生医学	助教	池田 宏輝	生体内における卵母細胞の転写、翻訳活性の分子制御機構の解明	2024	2026
若手研究	総合医療学	講師	大野 史郎	不明熱診療の質の改善のための診断アルゴリズムの作成とその実用性の検証	2024	2026
若手研究	中央放射線部	係長	山谷 裕哉	IVIM 解析を用いたステントグラフト内挿術後のエンドリークによる瘤拡大の予後予測	2024	2026
若手研究	小児科学	博士研究員	古川 晶子	友友病 A 治療におけるインヒビター発生抑制を目指した分子細胞免疫学的解析	2024	2027
若手研究	血栓止血先端医学講座	助教	三谷 成二	幹細胞技術を用いた in vitro 肝臓洞モデルの構築と肝線維化・炎症病態の解明	2024	2026
若手研究	消化器内科学	助教	岩井 聡始	ミトコンドリア機能を標的とした NASH 関連サルコペニアの治療開発	2024	2026
若手研究	循環器内科学	医員	経堂 篤史	収縮能が保たれた心不全の機械学習分類と microRNA などの biomarker の探索	2024	2025
若手研究	循環器内科学	助教	橋本 行弘	CMR parametric mapping を用いた急性大動脈解離の新規進展予測方法	2024	2025
若手研究	輸血部	講師	酒井 和哉	ADAMTS13 欠損患者の血栓症発症を修飾する血中プロテアーゼ活性及び腸内細菌叢	2024	2025
若手研究	消化器・総合外科学	助教	中村 広太	肺癌治療戦略選別を目的としたエクソソーム腫瘍遺伝子複合リキッドバイオプシーの開発	2024	2025
若手研究	消化器・総合外科学	学内講師	長井 美奈子	切除不能肺癌に対する新規血中バイオマーカーを用いた予後予測遺伝子パネルの開発	2024	2026
若手研究	救急医学	助教	奥田 哲教	脊髄損傷に対する骨格筋刺激装置併用ゲームを用いた新規リハビリテーション技術の開発	2024	2026
若手研究	泌尿器科学	助教	森澤 洋介	ラット膀胱における尿再吸収機構と膀胱時計遺伝子の成長に伴う変化の解明	2024	2026
若手研究	産婦人科学	助教	河原 直紀	卵巣明細胞癌における特異なエネルギー代謝に関する研究	2024	2026
若手研究	口腔外科学	助教	中村 泰士	口腔癌に対するセツキシマブ療法における ADCC 活性増強の試み	2024	2026
若手研究	口腔外科学	博士研究員	高橋 佑佳	味蕾および舌上皮の細胞増殖と維持・再生機構の解明	2024	2026
若手研究	口腔外科学	医員	中嶋 千恵	シンバイオティクスによるがん性サルコペニア抑制効果に関する研究	2024	2026
若手研究	組換え DNA 実験施設	博士研究員	西村 和樹	酸化的 DNA 損傷サイクロプリンは色素性乾皮症患者の脳に蓄積するか？	2024	2026
若手研究	脳神経外科学	助教	森崎 雄大	脳神経外科手術における筋電図付き胃管を用いた下位脳神経モニタリングの開発	2024	2028
若手研究	第二生理学	研究助教	梶谷 卓也	細胞周期とエピゲノムの連動の観点からのシングルセル生物学	2025	2027
若手研究	血栓止血先端医学講座	博士研究員	野田 正志	Tissue factor 遺伝子改変マウスを用いた急性肺炎の病態解明および治療応用	2025	2027
若手研究	病理診断学	助教	阪口 真希	実質臓器におけるモザイク LOY アトラスの構築と腫瘍発生における意義の解明	2025	2026
若手研究	胸部・心臓血管外科学	助教	宮田 亮	EGFR-TKI 治療耐性後の免疫療法に向けた腫瘍免疫微小環境のプレコンディショニング	2025	2027
若手研究	分子動態創薬共同研究講座	助教	中西 真理	疾患特異的 HLA 多型の分子構造解析	2025	2027
若手研究	精神医学	講師	高田 涼平	マクロファージのシナプス貪食に着目した統合失調症・自閉スペクトラム症の病態解析	2025	2028
若手研究	放射線診断・I V R 学	博士研究員	井上 正義	放射線治療における細針針で注入可能な新規生体吸収性ゲル状スプレーの開発	2025	2027
若手研究	放射線診断・I V R 学	助教	國近 瑛樹	EOB-MRI 肝細胞相の不均一性に着目した肝細胞癌の新規バイオマーカーの開発	2025	2026
若手研究	小児科学	助教	中島 由翔	友友病 A における高機能型第 VIII 因子製剤開発の基礎研究	2025	2027
若手研究	寄附講座 血栓止血分子病態学講座	講師	下西 成人	血栓症を呈した凝固第 V 因子の変異における凝固バランス機構の解明	2025	2027
若手研究	皮膚科学	助教	光井 康博	HHV-6 受容体としての OX40 とその可溶性分子に着目した GVHD のバイオマーカーの探索	2025	2027
若手研究	総合医療学	准教授	矢田 憲孝	関節リウマチ・SLE の炎症・血栓に対する NETs- 血小板-VWF 軸を標的とした新規治療法	2025	2027
若手研究	教育開発センター	研究助教	三須 政康	住血吸虫症に対する複数抗原型免疫の確立と感染制御の試み	2025	2027
若手研究	胸部・心臓血管外科学	助教	山梨 恵次	ミトコンドリア機能に着目した 10℃ 冷却保存による心停止ドナー肺保存の実証的研究	2025	2027
若手研究	中央手術部	助教	甲谷 太一	心臓血管外科周術期におけるプレハビリテーション介入研究	2025	2028
若手研究	中央手術部	助教	奥田 千愛	人工赤血球を用いた一酸化炭素投与が脳神経系に与える影響	2025	2027
若手研究	麻酔科学	助教	紺田 真規子	ARDS における ADAMTS4 による Glycocalyx 分解の分子基盤の解明	2025	2027
若手研究	脳神経外科学	博士研究員	森本 亮之	CIS、TIGIT ダブルブロックアウトヒト NK 細胞を用いた膠芽腫に対する新規治療法の開発	2025	2027
若手研究	脳神経外科学	博士研究員	佐々木 弘光	メラトニン動注による新たな脳保護療法の開発	2025	2028
若手研究	泌尿器科学	講師	後藤 大輔	食塩負荷が膀胱時計遺伝子に影響を与える機序の解明	2025	2027
若手研究	眼科学	助教	平井 宏昌	血管内皮細胞障害マーカーに着目した糖尿病網膜症の重症度予測法確立	2025	2027
若手研究	成人急性期看護学	講師	森脇 裕美	腰痛を有する看護師の立位姿勢と足の形態・機能の関連	2025	2027
若手研究	血栓止血医薬生物学 共同研究講座	助教	廻角 侑弥	友友病患者における体成分分析を用いた新しい身体機能評価指標の確立	2025	2026
若手研究	公衆衛生看護学	准教授	堀池 諒	地理情報システムを用いた災害時リアルタイム多層位置情報システムの開発	2025	2028
若手研究	精神医学	助教	奥村 和生	次世代電子カルテに必要な機械可読な構造化データとオントロジーを扱う基盤の検討	2025	2027
挑戦的研究 (萌芽)	公衆衛生学	助教	西岡 祐一	蓄積データからのエビデンス創出に資するグレイナー基底を用いた革新的統計手法の開発	2024	2025
研究活動スタート支援	病理診断学	助教	阪口 真希	性染色体異常に着目した髄膜腫のゲノム病理学的研究	2024	2025
奨励研究	病院病理部	主査	鈴木 久恵	Lamin 免疫染色を用いた HPV 陽性患者の子宮頸部細胞診における核形態異常の評価	2025	2025
奨励研究	病院病理部	主査	龍見 重信	CTC の分離技術を用いた肺組織中のアスベストや胸水等体腔液中の腫瘍細胞の分離研究	2025	2025
特別研究員奨励費	第二生理学	学振特別研究員 (PD)	小野寺 悠	友友病 A 根治に向けた血液凝固第 VIII 因子産生 IPS 細胞の作製と細胞治療	2025	2027
特別研究員奨励費	化学	学振特別研究員 (RPD)	久禮 智子	災害・緊急時の代替輸血製剤を目指した新しい高分子修飾リボソーム型人工赤血球の創製	2025	2027
特別研究員奨励費	発生・再生医学	学振特別研究員 (PD)	高島 友弥	卵巣オルガノイドを用いた卵巣予備能の形成機構の解明	2024	2026

未来への飛躍基金だより

平素より、未来への飛躍基金へのご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。皆様からいただいたご寄附は、教育、研究及び診療活動への支援、大学及び附属病院の施設整備等、幅広く活用させていただいております。

紺綬褒章伝達式を執り行いました

未来への飛躍基金にご寄附をいただきました大石豊氏（医学科 H15 卒業）と故鈴木秀和氏（大学院医学研究科 H5 修了）に対し、紺綬褒章が授与されました。本学において伝達式を執り行い、細井理事長・学長から章記を伝達するとともに、ご寄附への感謝の気持ちをお伝えしました。



令和7年4月16日伝達式
左から理事長・学長 細井裕司、大石豊氏



令和7年4月23日伝達式（遺族追賞）
前列左から理事長・学長 細井裕司、鈴木佐保氏

紺綬褒章は国の褒章制度の一つで、公益のために私財を寄附された方に授与される褒章です。未来への飛躍基金に500万円以上のご寄附をいただいた方（個人）及び1,000万円以上のご寄附をいただいた団体は、紺綬褒章授与の対象となります。あらかじめ分納のお申し出をいただいたご寄附も含まれます。未来への飛躍基金にご寄附をいただき、紺綬褒章申請を希望される場合は、分納のお申し出と合わせて総務広報課までお問合せください。

未来への飛躍基金への感謝 ＊リサーチ・クラークシップ海外実習（2024年度活動報告より）

未来への飛躍基金では、リサーチ・クラークシップ海外実習での宿泊費、交通費、実習費等の一部を助成しています。＊リサーチ・クラークシップとは、医学科2年生を対象としたプログラムで、早期に国内外の研究機関にて研究に参加することで、研究マインドを育てることを目的としています。

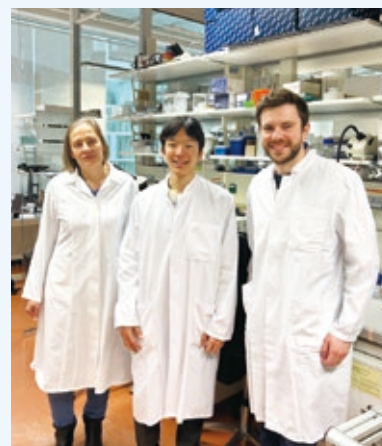
Max Planck Institute for Biology of Ageing

（当時）医学科2年 原田 昌

（実習期間）令和7年1月6日～令和7年3月20日

この度はリサーチ・クラークシップという機会を二年生で設けてくださり、さらにそこでドイツのMax Planck Instituteに行かせていただき本当にありがとうございました。現地での研究を通じて知識や視点の獲得にとどまらず、海外で研究する具体的なビジョンがクリアになりました。今までは不鮮明であった研究者としての将来像が見えたことから、この三カ月の経験は人生の大きなマイルストーンとなりました。

このドイツでの研究留学へのご支援をいただき、本当にありがとうございました。研究者として将来像が見えたことをはじめ、多くの収穫がありました。いただいたご支援を無駄にせず今後の研究活動にしっかり生かしていきたいと考えております。心より感謝申し上げます。



ラボの指導教員と

【奈良県立医科大学 総務広報課 未来への飛躍基金】

TEL：0744-22-3051（内線 2803） E-mail：hiyakukikin@naramed-u.ac.jp

【未来への飛躍基金 HP】 <https://hiyakukikin.naramed-u.ac.jp> または「未来への飛躍基金」で検索！



大学院入試日程

令和7年度 秋入学 大学院医学研究科（博士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
医科学	若干名	令和7年7月7日（月）～7月11日（金）	令和7年7月28日（月）	令和7年9月9日（火）

● 社会人※の入学も可能です。 ● 社会人には、長期履修制度を設けています。

令和8年度 大学院医学研究科（博士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
医科学	40	第一次募集 令和7年10月7日（火）～10月10日（金）	第一次募集 令和7年11月4日（火）	第一次募集 令和7年12月9日（火）
		第二次募集 令和8年1月6日（火）～1月9日（金）	第二次募集 令和8年1月26日（月）	第二次募集 令和8年3月5日（木）

- 社会人※の入学も可能です。 ● 社会人には、長期履修制度を設けています。
 ● 一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。 ● 令和8年度秋入学の実施については未定です。
 ● 大学院修学資金貸与制度（要件を満たした場合返還免除）があります。

令和8年度 大学院医学研究科（修士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
医科学	5	第一次募集 令和7年10月7日（火）～10月10日（金）	第一次募集 令和7年11月4日（火）	第一次募集 令和7年12月9日（火）
		第二次募集 令和8年1月6日（火）～1月9日（金）	第二次募集 令和8年1月26日（月）	第二次募集 令和8年3月5日（木）

- 社会人※の入学も可能です。但し、令和8年3月31日までに概ね1年以上の実務経験を有することが必要です。
 ● 一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。

令和8年度 大学院看護学研究科（博士前期課程）

コース	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
看護学コース	5	第一次募集 令和7年7月17日（木）～7月24日（木）	第一次募集 令和7年8月25日（月）	第一次募集 令和7年9月9日（火）
助産学実践コース	5	第二次募集 令和7年10月17日（金）～10月23日（木）	第二次募集 令和7年12月1日（月）	第二次募集 令和7年12月9日（火）

- 社会人※の入学も可能です。ただし、令和8年3月31日までに概ね1年以上の実務経験を有することが必要です。
 ● 社会人には、長期履修制度を設けています。
 ● 本学学部からの進学者、奈良県内に住所を有し要件を満たす者については入学科が免除される入学科免除制度があります。
 ● 高度実践コース（クリティカルケア看護分野、がん看護分野）及び助産学実践コースについては、修業中は学業に専念できる者とします。
 ● 一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。
 ※社会人とは医療・保健・福祉施設、教育・研究機関、企業、官公庁等に勤務し、入学後もその職を有する者です。

令和8年度 大学院看護学研究科（博士後期課程）

分野	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
生涯発達看護学分野	2	第一次募集 令和7年7月17日（木）～7月24日（木）	第一次募集 令和7年8月25日（月）	第一次募集 令和7年9月9日（火）
療養・生活支援看護学分野		第二次募集 令和7年10月17日（金）～10月23日（木）	第二次募集 令和7年12月1日（月）	第二次募集 令和7年12月9日（火）

- 社会人※の入学も可能です。ただし、令和8年3月31日までに概ね1年以上の実務経験を有することが必要です。
 ● 社会人には、長期履修制度を設けています。
 ● 本学大学院看護学研究科博士前期課程からの進学者、奈良県内に住所を有し要件を満たす者については入学科が免除される入学科免除制度があります。
 ● 一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。
 ※社会人とは医療・保健・福祉施設、教育・研究機関、企業、官公庁等に勤務し、入学後もその職を有する者です。

教育支援課：医学研究科担当 内線 2401 / 看護学研究科担当 内線 692139

公開講座情報

奈良医大×橿原市 イチからわかる！糖尿病教室

奈良医大と橿原市が合同で糖尿病教室を開催します。医師・管理栄養士が基礎からわかりやすく糖尿病についてレクチャーします。

- 日 時：第 1 回 7 月 4 日（金）糖尿病って何だろう？ バランスの良い食事とは
第 2 回 9 月 5 日（金）糖尿病治療のポイントと普段の食事の振り返り
第 3 回 11 月 28 日（金）糖尿病の合併症と血圧・減塩の関係

対 象 者：18 歳～ 64 歳の橿原市内在住・在勤の方

時 間：午後 1 時～ 2 時 30 分

場 所：橿原市保健センター北館 4 階 視聴覚研修室

定 員：各回 40 名

主 催：奈良県立医科大学 糖尿病・内分泌内科学講座、奈良県立医科大学附属病院 栄養管理部
橿原市 健康スポーツ部 健康増進課

参 加 費：無料

問合せ・申し込み：橿原市 健康スポーツ部 健康増進課 TEL:0744-22-8331



お申し込みは
こちらから

The donation person name

寄附者ご芳名

「未来への飛躍」基金にご協力いただきありがとうございました

平素より未来への飛躍基金へのご理解とご支援をいただき、心から御礼申し上げます。今号では令和 7 年 4 月～令和 7 年 6 月にご寄附いただいた方々のご芳名を掲載しております。

【個人】

◆100万円以上

伊藤 和男 様 中田 荷葉 様

◆30万円以上100万円未満

鈴木 秀夫 様 渡邊 愛子 様 渡邊 巖 様

◆10万円以上30万円未満

伊藤 利洋 様 小森 浩幸 様 酒井 宏水 様
坂本 一喜 様 宮尾 孝治 様

掲載を希望されない寄附者様 1 名

◆10万円未満

藤田 剛史 様 本田 孝雄 様

掲載を希望されない寄附者様 6 名

◆金額の公表を希望されない寄附者様

池田 久佳 様 杉浦 勝 様 丹治 英裕 様
中川龍太郎 様 中平 毅一 様

【奈良県立医科大学 総務広報課 未来への飛躍基金】

TEL：0744-22-3051（内線 2803） E-mail：hiyakukikin@naramed-u.ac.jp

【未来への飛躍基金 HP】 <https://hiyakukikin.naramed-u.ac.jp> または「未来への飛躍基金」で検索！



編集後記

皆様のご協力により第 93 号学報を発行することができました。ご協力、ご支援いただいた皆様に深く感謝いたします。学報では、教職員の皆様からの記事を随時募集しています、記事掲載を希望される方は総務広報課までご連絡ください。



Media Listing Information

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生を紹介します。

日付	媒体	対象者	掲載概要
2025年 3月3日 3月11日 3月12日 3月16日 3月19日 3月20日 3月24日 4月1日 4月7日 4月11日 4月29日	西日本新聞 47NEWS m3.com 他 10 社	県民健康増進支援センター	特任教授 富岡 公子 睡眠休養感、コロナで改善 眠りの短い人も減少か
3月5日	おもいでばこブログ	教育開発センター	講 師 城戸 楓 写真が子どもに与える意外な効果とは？ ～研究者と3児の母が語る「おもいでばこ」座談会レポート～
3月21日	奈良新聞	県民健康増進支援センター	特任教授 富岡 公子 コロナ禍で睡眠改善 義務的交流の減、影響か
3月24日	韓国教育放送公社 (EBS)	化学	教 授 酒井 宏水 本学附属病院での備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の第一相臨床試験実施について
3月27日	NHK おはよう日本	化学 血液内科学	教 授 酒井 宏水 教 授 松本 雅則 本学附属病院での備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の第一相臨床試験実施について
4月3日	毎日新聞	整形外科科学	名誉教授 田中 康仁 舞台芸術家を医科学で支える
4月13日	信濃毎日新聞	公衆衛生学	教 授 今村 知明 お墓の引っ越し県内で過去最多 23年度「改葬」2254件 10年で3倍 墓地の改葬についてコメント
5月18日	奈良新聞	脳神経内科学	診療助教 塩田 智 宇陀で市民公開講座 「今知りたい認知症のこと～見逃さないで、MCI」
5月19日	奈良新聞 どうする日本どうする奈良 2025	産婦人科学	教 授 木村 文則 最先端医療で、不妊に悩む全ての女性の笑顔目指す あらゆる不妊治療に対応／不妊は社会全体の問題
5月19日	日経メディカルオンライン	化学 血液内科学	教 授 酒井 宏水 教 授 松本 雅則 本学附属病院での備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の第一相臨床試験実施について
5月21日	毎日新聞 奈良版	精神医学	教 授 岡田 俊 オンカジ依存「治療」を 奈良でセミナー
5月21日	NHK Eテレ きょうの健康 選	臨床病態医学	教 授 山内 基雄 “快眠”新生活 睡眠時無呼吸症候群 働き盛りの睡眠トラブル
5月23日 5月28日	NHK Eテレ (再放送) きょうの健康 選	臨床病態医学	教 授 山内 基雄 “快眠”新生活 睡眠時無呼吸症候群 働き盛りの睡眠トラブル
5月25日	読売新聞		県立医大 開学 80 年 祝う 記念式典「常に理想実現目指す」
5月26日	奈良新聞		奈良から世界へ 県医大 80 周年、盛大に記念式典 畝傍山キャンパス披露
5月26日	NHK 総合 ニュースウォッチ9	公衆衛生学	教 授 今村 知明 老朽化する病院 「築 40 年有情」全国に 1600 余 NHK 調査 全国の病院建て替え困難傾向に関してコメント
6月2日	Newsweek (オンライン版)	化学 血液内科学	教 授 酒井 宏水 教 授 松本 雅則 本学附属病院での備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の第一相臨床試験実施について
6月11日	奈良新聞		EXPO2025 県立医大と MBT コンソーシアム 軟骨伝導が開く未来 大阪ヘルスケアパビリオン、16 日まで
6月12日	毎日放送 よんちゃん TV	公衆衛生学	教 授 今村 知明 病院の 7 割が赤字!? 医療の未来を考える
6月14日	読売新聞 夕刊	呼吸器内科学	教 授 室 繁郎 適用拡大された慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の新治療薬について、今までの治療薬との違い等を解説
6月14日	週刊日本医事新報	呼吸器内科学	教 授 室 繁郎 適用拡大された慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の新治療薬について、メディア向けセミナーにて講演
6月22日	読売新聞 病院の実力 (奈良編)	皮膚科学	准 教 授 新熊 悟 皮膚がん 観察する習慣持って ためらわずに受診を
7月17日	テレビ愛知 5時スタ	公衆衛生学	教 授 今村 知明 全国初「市立病院が経営統合して地方独立行政法人」 機能分化で経費削減 悪化する病院経営に光

メディア掲載情報をお寄せください

総務広報課 内線：2206